

はしがき

日本の大学も本格的なグローバル化の時代を迎えつつあると言われています。東北大学大学院教育学研究科においても、現在、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年計画で、概算要求特別経費として採択された「東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究」（推進事業名「アジア共同学位開発プロジェクト」）を進めています。このプロジェクトでは、東アジアの教育課題に対応できる国際的視野を持った指導的人材の養成をするために、国際的教育指導者養成の共同学位創設を目指した研究拠点を形成し、質の高い共同学位プログラムを開発することを目指しています。

このようなグローバル化、国際化が目指される現状の中、打ち出された大学の秋入学構想については様々なメリット・デメリットが指摘されています。メリットとしては、「日本人学生が留学しやすくなる」「外国からの留学生の増加が期待できる」「半年間の『ギャップイヤー』の間に語学研修や社会経験が積める」などが挙げられています。一方、デメリットとしては、「入学までの半年間の『ギャップイヤー』の間に学力・意欲が低下する」「卒業から就職までの間に空白が出来る」などが指摘されています。

このようなメリット・デメリットについては、大学教員、高校教員、企業の人事担当者の立場で考えるのか、あるいは大学受験を目指す高校生、大学生の立場で考えるのかによって大きく異なってくると考えられます。これまで実施された調査を概観してみると、高校、大学、企業関係者を対象にしたものが中心であり、大学生自身の意識に焦点を当てた調査はほとんどないことに気づかされます。しかし、秋入学の導入の是非、秋入学の方法、「ギャップイヤー」の取り組みなどを検討する際に、大学生自身の意識を捉えておくことは重要だと考えられます。

そのような観点から、東北大学大学院教育学研究科では、「大学の秋入学に関する東北大生の意識調査」を実施することにしました。この調査では、小・中・高の 4 月入学の現行制度を維持した場合の大学の秋入学に対する意識だけでなく、秋入学導入に当たって必要になる制度変更や条件整備についても検討することにしました。これによって、秋入学や「ギャップイヤー」に対する技術的な対応の問題だけではなく、日本の教育制度のあり方、国際化、グローバル化の中身の検討も視野に入れながら、質の高い大学教育とは何かを探っていきたいと考えました。

本調査報告書は、秋入学を通じた大学の国際化、大学教育の質保障を考えるための一歩に過ぎません。皆様の率直なご意見とご指導によって、さらなる検討を続けていきたいと考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。

平成 25 年 3 月

東北大学大学院教育学研究科長・教育学部長
本 郷 一 夫

研究組織

秋入学検討WG

本郷 一夫	東北大学大学院教育学研究科	(発達心理学)
安保 英勇	東北大学大学院教育学研究科	(臨床心理学)
神谷 哲司	東北大学大学院教育学研究科	(発達心理学)
工藤与志文	東北大学大学院教育学研究科	(教育心理学：WG代表)
深谷 優子	東北大学大学院教育学研究科	(教育心理学)
若島 孔文	東北大学大学院教育学研究科	(臨床心理学)

報告書執筆担当

工藤与志文	(1 章, 3 章, 4 章 担当)
神谷 哲司	(2 章 設問 I 担当)
安保 英勇	(2 章 設問 I 自由記述 担当)
深谷 優子	(2 章 設問 II 担当)
若島 孔文	(2 章 設問 II 自由記述 担当)

目 次

はしがき
研究組織

1. 本調査の概要	
1. 1 問題と目的	1
1. 2 調査対象と方法	2
1. 3 質問紙の構成と内容	2
2. 調査結果	
2. 1 分析対象者	5
2. 2 分析の観点	5
2. 3 設問Ⅰの結果	6
2. 4 設問Ⅱの結果	11
3. 調査結果のまとめ	
3. 1 秋入学に関する興味・関心について	37
3. 2 秋入学に関する賛否について	37
3. 3 移行期間について	38
4. 考察と結論	
4. 1 秋入学導入に対する東北大生の意識	39
4. 2 秋入学賛成層と反対層の違いについて	39
4. 3 適応上の問題と支援体制の構築について	40

資 料

1. 本調査の概要

1. 1 問題と目的

現在、大学のグローバル化のかけ声の下で、「大学の秋入学」導入の必要性が議論されている。導入に向けて具体的な検討に入る大学がある一方で、秋入学そのものの是非について、様々な立場から多様な意見が出されている状況である。現在までのところ、秋入学導入に向けた社会的合意が形成されているとは言い難い。

ところで、秋入学導入に関するこれまでの議論は、制度変更に伴うメリット・デメリットに焦点を当てたものがほとんどであり、学生生活への影響については十分に論じられてこなかった。このいわば「当事者不在」の議論は、意識調査のあり方においても認められる。これまで、秋入学に関する意識調査がいくつか行われているが、それらは高校、大学、企業関係者を対象にしたものが中心であり、大学生側の意識に焦点を当てた調査はほとんど見られないのである。しかしながら、秋入学導入はこれまでの学生生活のあり方を根本から変えるものであり、「ギャップターム」における学力の維持の難しさ、ギャップタームによる興味の拡散・学習意欲の低下、所属集団が一時的になくなることに起因する不安や懸念、集団作りの遅れに伴う人間関係づくりの難しさなど、学生生活への適応上、新たな問題を生み出す可能性がある。このような「懸念」については、先行する調査研究においても部分的に示唆されている。たとえば、高校教員を対象にしたある調査（『9月入学調査報告書』東京農工大学）によれば、秋入学制度によって「入学前の半年間のブランクのために、大学の学業にスムーズに入れない学生が増える」と予想する回答が44%で最も多かった。さらに、大学の学業にスムーズに入れる学生と入れない学生に二極化するだろうという意見がめだった。初期適応につまずくことで健全な大学生活を送れないケースが増えているという現状を考慮するならば、この懸念が現実のものとなる可能性は決して低くないものと予想される。したがって、秋入学導入を視野に入れるのであるならば、制度面のみならず学生の適応面でのサポート体制について検討に入ることが必要であると考えられる。

本調査は、「大学の秋入学」に関する東北大生の意識・考え方を探ることにより、秋入学制度の導入によって生じると予想される適応上の問題に対処するための基礎的知見を得ることを目的としている。これらの知見は、秋入学導入がもたらす適応上の問題をサポートする心理支援体制および学習支援体制を構築するための基礎資料となることが期待される。

1. 2 調査対象と方法

調査対象：平成 24 年度に東北大学に入学した 1 年生全員（2559 名）

調査時期：平成 25 年 1 月

調査方法：郵送による質問紙調査

調査の目的からすれば、①大学入学時の状況について想起できること②大学生活についてもある程度の知識や経験を有することが必須である。これらの条件を満たす調査対象として、入学後 10 ヶ月を経過した大学 1 年生が最適であると判断した。調査対象者には質問紙を郵送し、回答の上、返信用封筒にて質問紙を返送するよう要請した。直接回答を求める方法に比べ、郵送では回収率が下がることが予想されるが、2500 名を超える学生を対象とする調査であることを鑑み、郵送による方法を採用した。

1. 3 質問紙の構成と内容

1. 3. 1 「秋入学」の概念規定

「秋入学」あるいは「秋季入学」という用語は、マスコミで広く使われることで一般に知られるようになったが、その意味は必ずしも明確ではなく、一義的に理解されているとは言えない。単に入学時期の変更だけを示す場合もあれば、高校卒業・大学入試から大学卒業・就職までを含む制度全体の変更を視野に入れている場合もある。秋入学に関する意識調査を行う立場からすれば、当然後者のような制度全体を視野に入れて調査を行う必要がある。そこで、調査にあたっては、「秋入学」を以下のように概念規定し、それについての意識や考え方を尋ねることにした。

- ①「秋入学」とは、入学や卒業の時期を半年ずらし、秋（9 月～10 月）に入学し、夏（8 月～9 月）に卒業をすることを意味する。
- ②現在、議論が進められている「秋入学」は、大学においてのみ検討されており、高等学校では検討されていない。そこで、大学の「秋入学」が実施された場合、高校を卒業した後、大学入学までの半年間、高校にも大学にも所属しない期間（ギャップターム）が生じることになる。（なお、本調査ではギャップタームを「移行期間」と呼称する。）
- ③大学の入試制度については、現行通り、センター試験は 1 月、国公立大学の 2 次試験は 2 月～3 月に実施されるものとする。
- ④就職の時期(民間企業や公務員等の採用試験等の日程も含む)については、現状の通りとする。

1. 3. 2 質問紙の内容

質問紙はフェイスシート、設問Ⅰ（Q1～Q3）、設問Ⅱ（Q4～Q10）で構成されている。フェイスシートには、調査目的の説明、調査で用いる用語の説明（「秋入学」の意味の解説）、学部名と性別を尋ねる質問が記載されていた。

設問Ⅰは、「移行期間」に関する質問であり、設問Ⅱは「秋入学」に関する質問である。学生生活適応上の問題として、まず問題となるのが「移行期間」の扱いであると予想されるので、先ずそれについて尋ね、ついでそのような移行期間が生じるもととなる「秋入学」制度について尋ねるという構成を採った。

設問Ⅰの各質問内容は以下の通り。

- ・Q1 もし、あなたが秋入学をすることになった場合、あなた自身は移行期間をどのようにして過ごしたいですか。
- ・Q2 秋入学が導入された場合、移行期間の間に、大学が新たな活動プログラムを提供することが予想されます。このことについて、あなたならどのような活動プログラムに参加したいと思いますか。
- ・Q3 移行期間によって生じられる以下のようなことについて、あなた自身はどの程度不安に感じますか。

まずQ1では移行期間の過ごし方について尋ね、Q2では大学が提供する活動プログラムについての希望を具体的に尋ねた。さらに、Q3では移行期間が生じることに伴う不安面について尋ねた。

設問Ⅱの各質問内容は以下の通り。

- ・Q4 あなたは大学の秋入学の問題に興味や関心がありますか。
- ・Q5 秋入学導入のねらいの1つに、海外への留学を活発にしようというのがあります。あなたが大学に入学した頃に秋入学の制度が一般的になっていたとしたら、留学しようと思いましたか。
- ・Q6 あなたは自分の所属する大学で秋入学を実施することについてどのように思いますか。
- ・Q7 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。
- ・Q8 現在、日本のいくつかの大学で秋入学に関して検討が進められていますが、その中では本調査で仮定したような「秋入学、秋卒業」とせず、入学時期を現行通りとし、始業を秋にするという案（実質3.5年の修学期間）が提案されています。こうした秋始業の案について、あなたご自身はどのように思いますか。
- ・Q9 大学の秋入学をめぐる検討については、本調査で仮定したような「秋入学、夏卒業」や上記Q8で述べたような「春入学、秋始業、春卒業」とは異なるやり方があると考えられます。そこで、大学の入学や卒業の時期に関して、どの方式に最も魅力を感じますか。
- ・Q10 最後に、秋入学の導入や移行期間に関して、あなたが「入学予定者」の立場に置かれたとして、心配な点や希望することなど、なにか思うところがございましたら、下記の記入欄にご自由にお書きください。

Q4 では秋入学に関する興味・関心について、Q5 では留学に対する関心について尋ねた。Q6 は秋入学導入についての賛否を尋ね、Q7 では導入に当たって必要となる条件整備について尋ねた。Q8 では、いくつかの大学で導入が検討されている「秋始業」についての是非を尋ね、Q9 では現行方式も含め最も望ましいと考えられる方式について尋ねた。最後の Q10 では秋入学導入についての懸念・不安や希望することについて自由記述を求めた。

2. 調査結果

2. 1 分析対象者

調査対象者 2 5 5 9 名のうち、4 3 7 名から回答を得た（回収率 17%）。これらを分析対象者とする。本調査は郵送によって質問紙を回収しているため、分析対象者は積極的に調査協力した者に限られる。したがって、分析対象者は他の学生と比較して、秋入学に関して高い問題意識を持っている層であると考えられる。調査結果の解釈には、この点についての留意が必要であろう。

なお、学部ごとの内訳は以下の通り。

・文学部	5 0 名	(11.4%)
・教育学部	1 5 名	(3.4%)
・法学部	2 6 名	(5.9%)
・経済学部	4 6 名	(10.5%)
・医学部	4 7 名	(10.8%)
・歯学部	5 名	(1.1%)
・薬学部	1 2 名	(2.7%)
・理学部	6 9 名	(15.8%)
・工学部	1 3 7 名	(31.4%)
・農学部	2 8 名	(6.4%)
・未記入	2 名	(0.5%)

また、男女別の内訳は、男性 2 8 7 名(65.7%)、女性 1 4 8 名(33.9%)、未記入 2 名(0.5%)であった。

2. 2 分析の観点

調査結果の分析にあたっては、それぞれの質問項目に対する全体的な回答分布の他に、文系学生と理系学生の違いについても検討した。さらに、Q 6 において、東北大学における秋入学の実施について、「賛成」「反対」「賛成とも反対とも言えない」に意見が 3 分された（後述）ので、秋入学に賛成する学生層と反対する学生層の違いに着目した分析を行った。

2. 3 設問 I の結果

設問 I では、秋入学に伴って生じる高校卒業後から大学入学までの期間を「移行期間」とし、回答者が実際に「秋入学」をすることになったと仮定した場合に、その「移行期間」についてどのように考えるかについて想像してもらった。各問の集計結果は以下のとおりである。

Q1 移行期間をどのようにして過ごしたいか

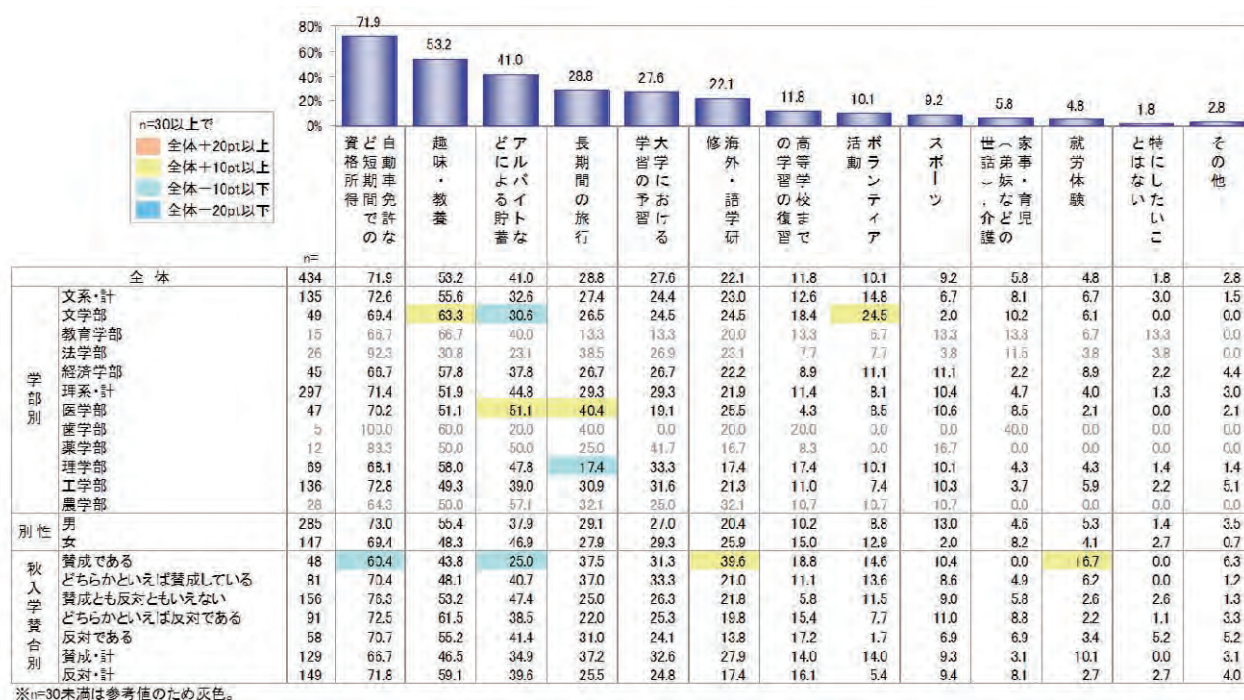


図 1 移行期間をどのように過ごしたいか

「移行期間」にしてみたいこととして、「特にしたいことはない」「その他」を含めた 13 個の選択肢の中から 3 つまで選んでもらった結果が図 1 である。最も多かったのは「自動車免許など短期間での資格取得」(71.9%) であり、次いで、「趣味・教養」(53.2%)、「アルバイトなどによる貯蓄」(41.0%) であった。文系か理系かという違い、あるいは、秋入学への賛否による大きな違いは見られなかった。

「その他」に見られた自由記述としては「遊ぶ」と記入したものが実質的に 4 名いたほか、「無駄に過ごしてしまう気がする。」「就労体験、ボランティア、アルバイトなどの様々な社会経験。」「自分の興味のある部分の理解を深める。」「計画立てても結局だらけと思う。」といった回答がみられていた。概して、秋入学によって生じる移行期間において、学生自らが積極的に大学での学びに関する予習や復習、語学といった勉学に関する活動よりも、資格取得や趣味、貯蓄といった活動に目が向いていることが示されているといえよう。

Q2 移行期間に参加したい活動プログラム

項目	n	参加したいと思う・計			参加したいと思わない・計			思う・計	参加したい・計
		非常に参加したいと	参加したいと思う	どちらかといえう	どちらかといえう	参加したいとは思わない	まったく参加したいと思わない		
大学での研究活動(実験やフィールドワーク)などの体験活動	433	24.7		37.0	25.4	7.4	39.6	87.1	12.9
英語などの語学学習	435	22.8		33.8	28.3	8.0	41.0	84.8	15.2
入学予定者間の親睦を深めるような交流活動	435	19.3		29.0	30.8	11.5	48.4	79.1	20.9
大学1年次の教養教育の事前指導	435	17.0		27.4	34.0	11.5	57.4	78.4	21.6
パソコンなど情報機器の基礎的スキルの修得	434	16.4		30.0	31.6	12.7	58.3	77.9	22.1
海外研修	436	29.6		21.3	22.7	10.3	7.8	73.6	26.4
国際交流	436	20.6		25.5	26.8	14.2	7.3	72.9	27.1
リーダーシップ等、社会人として求められる資質の養成講座	434	14.5		28.3	27.6	16.6	8.3	70.5	29.5
インターンシップなどの勤労社会体験	435	10.1		28.0	32.9	16.3	10.1	69.0	31.0
ボランティアなどの社会貢献奉仕活動	436	13.3		27.1	28.0	16.1	8.5	68.3	31.7
大学のカリキュラムにない資格取得に関する学習	435	14.7		23.7	29.0	17.0	11.0	67.4	32.6
大学図書館の開放や利用ガイドの指導	436	18.7		18.6	29.4	19.0	9.2	64.7	35.3
体力増進スポーツ活動	436	11.2		22.9	24.5	18.3	11.9	58.7	41.3
留学準備のためのプログラム(説明会やグループワーク)	436	14.0		16.3	24.3	21.8	12.8	54.6	45.4
出身家庭や地域とは異なる場所でのホームステイ活動	435	12.2		16.6	25.5	18.6	16.6	54.3	45.7
遠隔地からも参加できるeラーニングによる活動	434	6.2		12.2	29.5	29.0	13.8	47.9	52.1
高校までの学習内容の補習教育	436	4.8		13.3	23.6	24.5	19.5	41.7	58.3

図2 移行期間における活動プログラムへの参加意向

移行期間に、大学側が提供するであろうプログラムとして17項目を準備し、それぞれについて、「非常に参加したい」から「まったく参加したいとは思わない」の6件法で尋ねた(図2)。それらを「参加したい」「参加したくない」という2つの意向としてとらえると、「大学での研究活動(実験やフィールドワーク)などの体験活動」(87.1%)、「英語などの語学学習」(84.8%)、「入学予定者間の親睦を深めるような交流活動」(79.1%)、「大学1年次の教養教育の事前指導」(78.4%)などが高い参加意向を示したプログラムであった。次に、「参加したい」と「参加したくない」との対比でみると、17項目中15項目が「したくない」よりも「参加したい」が多く、「参加したくない」の方が多かったのは、「遠隔地からも参加できるeラーニングによる活動」(「参加したい」が47.9%)、「高校までの学習内容の補習教育」(同41.7%)であった。また、「非常に参加したいと思う」と回答した割合が高い項目を見てみると、「海外研修」が29.6%と最も高くなっており、一部の学生に海外研修がきわめて魅力的なプログラムとなっていることがうかがえる。

さらに、希望する活動プログラムの学部ごとに違いに目を向けてみると、文系学部では「大学のカリキュラムにない資格取得に関する学習」の参加意向が79.4%と全体の67.4%よりも10%以上高く、「高校までの学習内容の補習教育」の参加意向が31.4%と全体の41.7%よりも10%以上低かった。また、秋入学への賛否との関連では、賛成の意向を示している場合に、「留学準備のためのプログラム(説明会やグループワーク)」や「出身家庭や地域とは異なる場所でのホームステイ活動」の参加意向が高く、反対の場合に低いことが示されていた(図3)。

これらの結果から、大学側がプログラムとして準備するのであれば、大学での学びの準備、特に研究活動のみならず、1年次の教養教育や語学学習も含めた学習への意欲は高いこと、文系学部では高

校までの学びとは違った資格取得などに目が向きがちであること、さらに秋入学への賛否は海外への留学やホームステイの希望と関連している可能性が示唆されたといえよう。

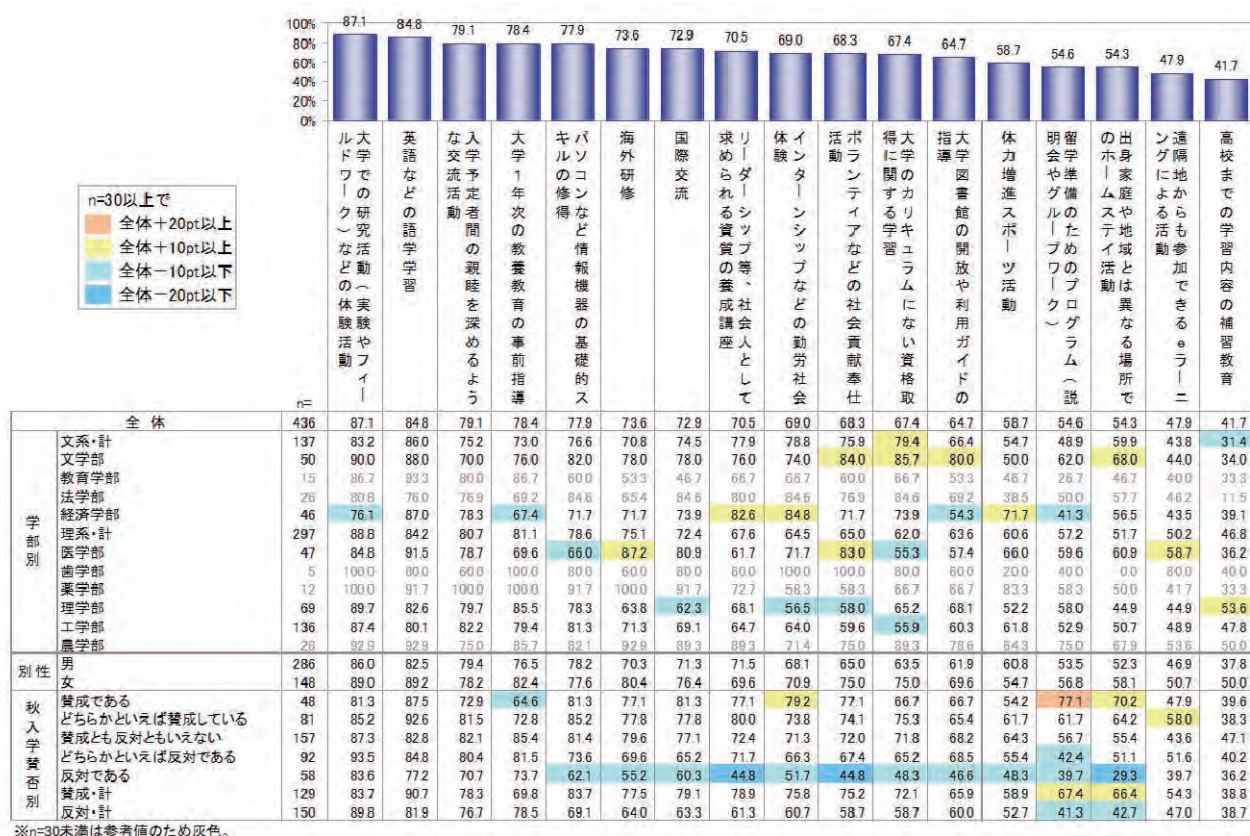


図3 移行期間における活動プログラム—属性別詳細

なお、補設問として上記 17 項目にない希望する活動プログラムを自由記述で記入してもらったところ、54 名に記述が見られた（「特になし」などと記入したものを除く）。大まかに分類すると、部活動やサークルの体験、事前活動が 12 名、在学生との交流が 14 名、研究室訪問や講義の聴講など選択肢にある「大学での研究活動の体験」に類似したものが 11 名、一部、在学生との交流と重複するが、「先輩方に聞く、仙台での生活みたいなもの、各学部、先輩方と交流して、家を決める際のポイントや遊ぶ所、美味しい飯屋等を教えてもらえる活動。」といった回答に見られるような生活準備に関する回答が 6 名見られていた。また、「大学が活動プログラムを提供するなら、春入学と変わらず秋入学にする意味がない。わざわざ外国に合わせて入学時期を決める必要はない。」といった意見もみられていた。

Q3 移行期間によって生じる不安

移行期間によって生じる学生の不安に関して、11 項目を準備し、それぞれについて、「非常に不安である」から「まったく不安ではない」の 6 件法で尋ねた(図 4)。それらを「不安である」「不安でない」という 2 つの意向としてとらえると、不安の高い項目として、「移行期間に、自堕落な生活をしてしまうこと」(不安である 86.7%, 以下同)、「入学までに学力が低下すること」(83.8%), 「移行期間の過ごし方次第で、入学する学生間に格差が生じること」(74.9%)などがあげられる。一方、「不安で

ある」が低かった項目(すなわち、「不安ではない」項目)は、「移行期間の間、家のなかに自分の居場所がなくなること」(13.8%)といった家庭に関する項目のほか、「移行期間の間に、大学での学習内容に興味を失うこと」(41.1%)であった。概して、移行期間において自分を律することができるかどうか、大学への学習にうまく適応できるかどうかといった点での不安が高いことがうかがえている。

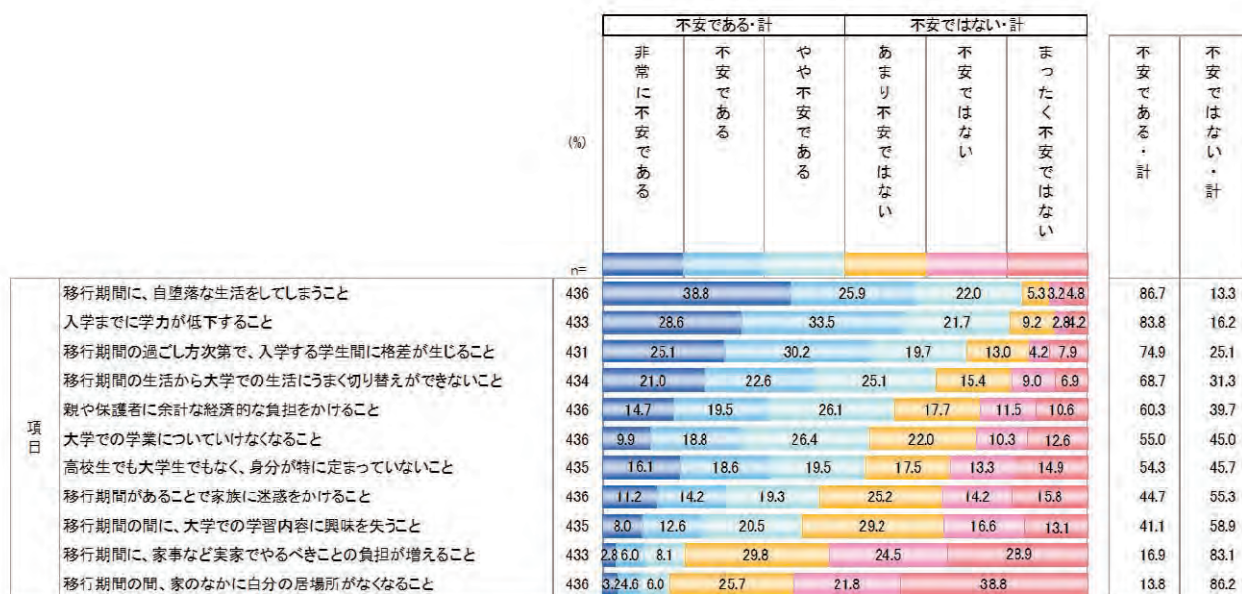


図 4 移行期間に生じる不安

さらに、学部や秋入学への賛否による不安の違いに目を向けてみると(図 5)、不安の内容について文系／理系による違いは特にみられないようだが、秋入学の賛否に関してしてみると、「反対である」とする意向を持つ場合、「高校生でも大学生でもなく、身分が特に定まっていないこと」(66.0%)、「移行期間の間に、大学での学習内容に興味を失うこと」(53.3%)の項目において全体よりも不安であると感じる割合が高いようであった。一方で、賛成の意向を示す場合に、全体よりも不安を感じる割合が 10%以上低かった項目は、「移行期間に、自堕落な生活をしてしまうこと」(74.4%)、「移行期間の過ごし方次第で、入学する学生間に格差が生じること」(59.8%)、「移行期間の生活から大学での生活にうまく切り替えができないこと」(55.5%)、「大学での学業についていけなくなること」(38.0%)、「高校生でも大学生でもなく、身分が特に定まっていないこと」(39.1%)、「移行期間の間に、大学での学習内容に興味を失うこと」(29.7%)の 6 項目であり、秋入学への賛成の意向を示す場合、比較的、大学への適応に不安が少ないことが示唆されたといえよう。

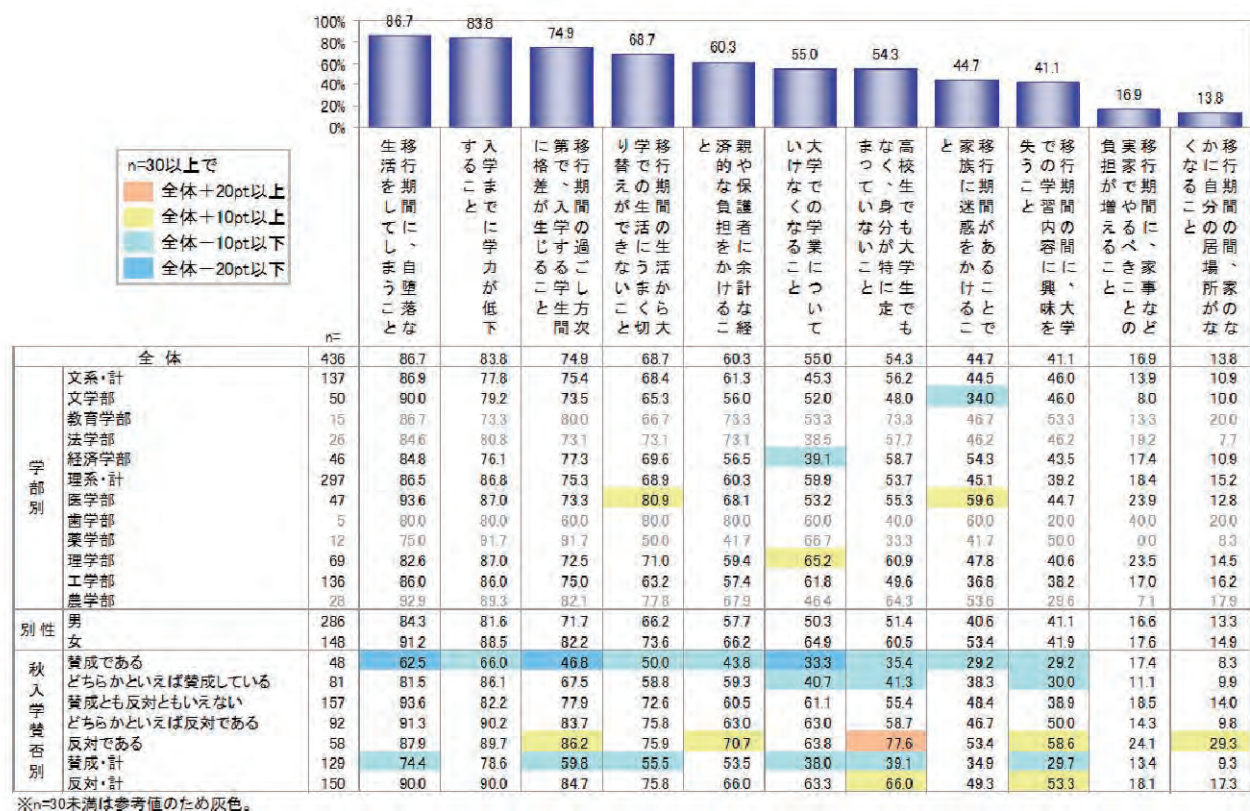


図5 移行期間に生じる不安—属性別詳細

さらに補設問として、上記 11 項目以外に「特に心配になったり気がかりになること」があるかどうかを自由記述で尋ねたところ、107 名に記述が見られた(「特になし」などと記入したものを除く)。その大半が、「自堕落な生活になりそう。」「学力低下。生活習慣の悪化。大学への興味、勉強への意欲の低下。」「無駄な日々をすごしてしまうこと。」といった記述に見られるように、自分を律することができるかどうかの不安であった。また、「就職のとき不安」といったように、就職時期や就職活動に関する不安・気がかりを挙げたものが 6 名いた。さらに、少数意見として次のような記述も見られた。

「入学予定者の身分(学割は適用されるか等)について。」「大学が移行期間の間に新たな活動プログラムを提供してくれたとして、そのプログラムに参加するための必要経費がかかること。その経費が奨学金の対象になるか、そのための奨学金があるかどうか不明であること。」「遠隔地の大学の場合、移行期間中に引越すべきかどうかどうなのかがわからない(移行期間中、どの程度大学での活動があるかによるため)。」

2. 4 設問Ⅱの結果

Q 4 秋入学に関する興味・関心

「Q 4 あなたは大学の秋入学の問題に興味や関心がありますか」という問いに対して、『興味や関心がある』『どちらかといえば興味や関心がある』の回答の合計は、60%以上であった。この傾向は、“全体”においても“文系・計”，“理系・計”においても同様である。また，秋入学賛否別に見ても，“反対・計”において、『興味や関心がある・計』が50%を超えていることから，東北大学生において秋入学の話題に関する興味や関心が全般的に高いことがうかがえる。

表 1 大学の秋入学の問題に興味や関心があるか

Q4 あなたは大学の秋入学の問題に興味や関心がありますか		該 当 数	a ・ 興 味 や 関 心 が あ る	b ・ ど ち ら か と い え ば 興 味 や 関 心 が あ る	c ・ 興 味 が あ る と も な い	d ・ 興 味 や 関 心 は な い	e ・ 興 味 や 関 心 は な い	興 味 や 関 心 が あ る ・ 計	興 味 や 関 心 は な い ・ 計
全 体		435	17.0	46.0	19.5	12.6	4.8	63.0	17.5
学 部 別	文系・計	137	17.5	43.8	23.4	9.5	5.8	61.3	15.3
	文学部	50	20.0	40.0	22.0	14.0	4.0	60.0	18.0
	教育学部	15	6.7	66.7	26.7	0.0	0.0	73.3	0.0
	法学部	26	23.1	46.2	15.4	3.8	11.5	69.2	15.4
	経済学部	46	15.2	39.1	28.3	10.9	6.5	54.3	17.4
	理系・計	296	16.9	46.6	17.9	14.2	4.4	63.5	18.6
	医学部	46	15.2	43.5	28.3	13.0	0.0	58.7	13.0
	歯学部	5	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0	40.0
	薬学部	12	8.3	50.0	25.0	0.0	16.7	58.3	16.7
	理学部	69	23.2	36.2	11.6	24.6	4.3	59.4	29.0
	工学部	137	18.2	48.9	18.2	10.2	4.4	67.2	14.6
	農学部	27	3.7	66.7	11.1	14.8	3.7	70.4	18.5
性 別	男	286	21.3	46.2	17.8	9.8	4.9	67.5	14.7
	女	147	8.8	44.9	23.1	18.4	4.8	53.7	23.1
秋 入 学 賛 否 別	賛成である	48	54.2	37.5	4.2	0.0	4.2	91.7	4.2
	どちらかといえば賛成している	80	16.3	71.3	7.5	5.0	0.0	87.5	5.0
	賛成とも反対ともいえない	156	10.3	42.9	26.9	16.0	3.8	53.2	19.9
	どちらかといえば反対である	92	9.8	39.1	26.1	21.7	3.3	48.9	25.0
	反対である	59	16.9	37.3	18.6	10.2	16.9	54.2	27.1
	賛成・計	128	30.5	58.6	6.3	3.1	1.6	89.1	4.7
	反対・計	151	12.6	38.4	23.2	17.2	8.6	51.0	25.8

※ 『a.興味や関心がある』『b.どちらかといえば興味や関心がある』『c.興味があるともないともいえない』『d.どちらかといえば興味や関心はない』『e.興味や関心はない』の5件法。『興味がある・計』は『a.興味や関心がある』と『b.どちらかといえば興味や関心がある』の、『興味がない・計』は『d.どちらかといえば興味や関心はない』『e.興味や関心はない』の回答の合計。

Q 5 留学意欲

「Q5 秋入学導入のねらいの1つに、海外への留学の活発化があります。あなたが大学に入学した頃に秋入学の制度が一般的になっていたとした場合、あなたは現在の自分の気持ち以上に留学したいと思いますか」に対して、『a. 留学意欲が強まると思う』『b. どちらかといえば強まると思う』の回答の合計である『強まる・計』は40%弱であった。この傾向は、“全体”においても“文系・計”，“理系・計”においても同様である。秋入学賛否別に見てみると，“賛成・計”においては約60%が『強まる・計』の回答をしていたことから、秋入学賛成の立場の東北大学生は、留学に関しても制度が整って機会があれば留学したいと考えており、留学への意欲が潜在することが示唆された。これに対し、秋入学反対の立場の学生は、留学意欲が強まるとする学生は約20%と相対的に少ないことから、秋入学を留学を促進する契機とはとらえていないことがうかがえる。

表2 大学に入学した頃に秋入学の制度が一般的になっていた場合、
現在の自分の気持ち以上に留学したいと思うか

Q5 秋入学導入のねらいの1つに、海外への留学の活発化があります。あなたが大学に入学した頃に秋入学の制度が一般的になっていたとした場合、あなたは現在の自分の気持ち以上に留学したいと思いますか。(SA)		該 当 数	思 う ・ 留 学 意 欲 が 強 ま る と	ま る ・ ど ち ら か と い え ば 強	い と ・ 思 う 留 学 意 欲 は 変 わ ら な	ま る ・ ど ち ら か と い え ば 弱	思 う ・ 留 学 意 欲 が 弱 ま る と	強 ま る ・ 計	弱 ま る ・ 計
全 体		436	11.7	25.7	59.9	1.1	1.6	37.4	2.8
学 部 別	文系・計	137	13.1	25.5	59.1	0.7	1.5	38.7	2.2
	文学部	50	16.0	26.0	56.0	2.0	0.0	42.0	2.0
	教育学部	15	13.3	13.3	66.7	0.0	6.7	26.7	6.7
	法学部	26	7.7	34.6	57.7	0.0	0.0	42.3	0.0
	経済学部	46	13.0	23.9	60.9	0.0	2.2	37.0	2.2
	理系・計	297	11.1	25.6	60.3	1.3	1.7	36.7	3.0
	医学部	47	14.9	27.7	57.4	0.0	0.0	42.6	0.0
	歯学部	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	薬学部	12	0.0	41.7	58.3	0.0	0.0	41.7	0.0
	理学部	69	14.5	18.8	60.9	1.4	4.3	33.3	5.8
	工学部	137	8.8	27.7	59.9	2.2	1.5	36.5	3.6
	農学部	27	14.8	18.5	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0
性 別	男	287	12.2	25.8	59.6	1.0	1.4	38.0	2.4
	女	147	10.9	25.2	60.5	1.4	2.0	36.1	3.4
秋 入 学 賛 否 別	賛成である	48	39.6	22.9	35.4	0.0	2.1	62.5	2.1
	どちらかといえば賛成している	81	16.0	39.5	43.2	1.2	0.0	55.6	1.2
	賛成とも反対ともいえない	156	9.0	28.2	60.9	1.3	0.6	37.2	1.9
	どちらかといえば反対である	92	3.3	18.5	78.3	0.0	0.0	21.7	0.0
	反対である	59	3.4	13.6	71.2	3.4	8.5	16.9	11.9
	賛成・計	129	24.8	33.3	40.3	0.8	0.8	58.1	1.6
	反対・計	151	3.3	16.6	75.5	1.3	3.3	19.9	4.6

※ 『a. 留学意欲が強まると思う』『b. どちらかといえば強まると思う』『c. 留学意欲は変わらないと思う』『d. どちらかといえば弱まると思う』『e 留学意欲が弱まると思う』の5件法。『強まる・計』は『a. 留学意欲が強まると思う』と『b. どちらかといえば強まると思う』との、『弱まる・計』は『d. どちらかといえば弱まると思う』と『e 留学意欲が弱まると思う』との回答の合計。

Q 6 東北大学における秋入学の賛否

「Q 6 あなたは自分の所属する大学で秋入学を実施することについてどのように思いますか」に対して、『a. 賛成である』『b. どちらかといえば賛成している』の回答の合計である『賛成・計』は約 30%, 『d. どちらかといえば反対である』『e 反対である』の回答の合計である『反対・計』は約 35% であり、賛成と反対、その他の立場の学生の割合が拮抗していることが示された。

表 3 自分の所属する大学で秋入学を実施することについてどのように思うか

Q6 あなたは自分の所属する大学で秋入学を実施することについてどのように思いますか		該 当 数	a ・ 賛 成 で あ る	成 b し ・ ど ち ら か と い え ば 賛	え c な い ・ 賛 成 と も 反 対 と も い	対 d で ・ ど ち ら か と い え ば 反	e ・ 反 対 で あ る	賛 成 ・ 計	反 対 ・ 計
全 体		437	11.0	18.5	35.9	21.1	13.5	29.5	34.6
学 部 別	文系・計	137	10.9	16.8	37.2	24.8	10.2	27.7	35.0
	文学部	50	12.0	18.0	38.0	22.0	10.0	30.0	32.0
	教育学部	15	6.7	13.3	13.3	40.0	26.7	20.0	66.7
	法学部	26	0.0	26.9	38.5	23.1	11.5	26.9	34.6
	経済学部	46	17.4	10.9	43.5	23.9	4.3	28.3	28.3
	理系・計	298	11.1	19.1	35.2	19.5	15.1	30.2	34.6
	医学部	47	4.3	29.8	21.3	23.4	21.3	34.0	44.7
	歯学部	5	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	薬学部	12	8.3	16.7	41.7	16.7	16.7	25.0	33.3
	理学部	69	15.9	14.5	39.1	17.4	13.0	30.4	30.4
	工学部	137	11.7	19.0	34.3	21.2	13.9	30.7	35.0
	農学部	28	10.7	17.9	39.3	14.3	17.9	28.6	32.1
性 別	男	287	13.2	20.2	33.1	20.9	12.5	33.4	33.4
	女	148	6.8	14.9	41.2	21.6	15.5	21.6	37.2
秋 入 学 賛 否 別	賛成である	48	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	どちらかといえば賛成している	81	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	賛成とも反対ともいえない	157	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	どちらかといえば反対である	92	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	反対である	59	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	賛成・計	129	37.2	62.8	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	反対・計	151	0.0	0.0	0.0	60.9	39.1	0.0	100.0

※ 『a. 賛成である』『b. どちらかといえば賛成している』『c. 賛成とも反対ともいえない』『d. どちらかといえば反対である』『e 反対である』の 5 件法。『賛成・計』は『a. 賛成である』と『b. どちらかといえば賛成している』との、『反対・計』は『d. どちらかといえば反対である』と『e 反対である』との回答の合計。

Q7 秋入学の導入にあたり整備が必要だと思う事柄

「Q7 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか」として呈示した Q7_1 から Q7_10 において、『6 非常に必要だと思う』『5 必要だと思う』『4 どちらかといえば必要だと思う』『3 どちらかといえば必要だと思わない』『2 必要だとは思わない』『1 全く必要だとは思わない』の合計である『必要だと思う・計』の割合が高かった上位 3 項目は、順に「Q7_9 卒業と就職との間にギャップが生じないような採用システムをつくること」(96.6%)、「Q7_10 現在の就職活動における新卒一括採用(定期採用)への偏重を是正すること」(94.3%)、「Q7_6 入学予定者を対象とした、移行期間に行われ各種プログラムを充実させること」(91.5%)であった。これらと「Q7_7 「学生割引」など、学生を対象とした優遇措置を入学予定者へも適用すること」(89.7%)とが、約 90%の学生が秋入学導入に際して整備すべき事項と回答したことになる。『必要だと思う・計』の割合が低かった下位 3 項目は、順に「Q7_5 小学校から高等学校まで、すべての教育機関秋入学を実施すること」(43.2%)、「Q7_3 高等学校で(2 年ないし 2.5 年で卒業可能とするような)早期卒業制度が実施され、秋入学に伴う時間的ロスが軽減されること」(49.0%)、「Q7_1 秋入学にあわせた時期に大学入試を実施すること」(63.5%)であり、高校までの教育システムや入試の時期の見直しや整備の必要性に関しては、学生の間で意見が割れていることが示された。これらの全体の結果と、文系・理系、秋入学賛否別の結果はほぼ同じである。ただし、「Q7_5 小学校から高等学校まで、すべての教育機関秋入学を実施すること」に関しては、秋入学賛成の立場の学生においては 36.4%であるのに対し、秋入学反対の立場の学生においては 54.3%と高くなっており、秋入学反対の学生は、小学校から高校までのすべての教育機関で入学時期をそろえることが重要だと考えていると推察される。

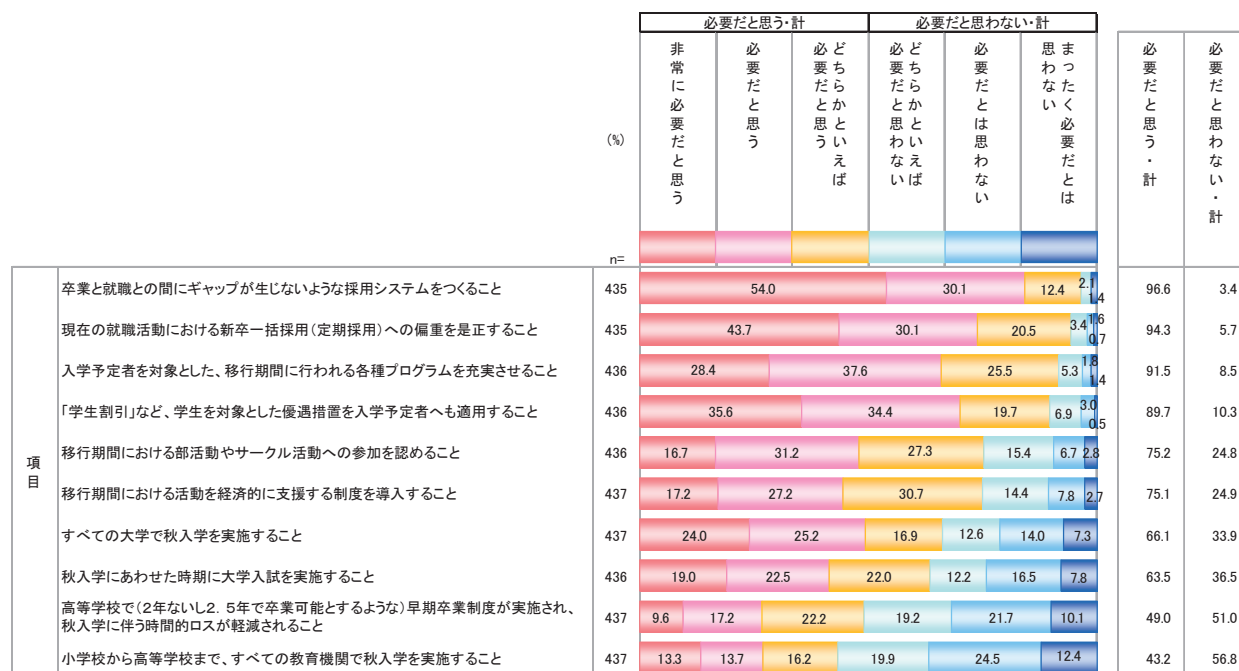


図6 自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思うか

※ 『6 非常に必要だと思う』『5 必要だと思う』『4 どちらかといえば必要だと思う』『3 どちらかといえば必要だと思わない』『2 必要だとは思わない』『1 全く必要だとは思わない』の 6 件法。『必要だと思

う・計』は『6 非常に必要だと思う』『5 必要だと思う』『4 どちらかといえば必要だと思う』の、『必要だと思わない・計』は『3 どちらかといえば必要だと思わない』『2 必要だとは思わない』『1 全く必要だとは思わない』の回答の合計。

表 4 秋入学にあわせた時期に大学入試を実施することは必要か

Q7.1 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／秋入学にあわせた時期に大学入試を実施すること		該当数	非常に必要だと思う	必要だと思う	どちらかといえば必要だ	どちらかといえば必要だ	必要だとは思わない	まったく必要だとは思わない	必要だと思う・計	必要だと思わない・計
全 体		436	19.0	22.5	22.0	12.2	16.5	7.8	63.5	36.5
学部別	文系・計	136	14.0	27.9	26.5	11.8	13.2	6.6	68.4	31.6
	文学部	49	8.2	30.6	18.4	16.3	20.4	6.1	57.1	42.9
	教育学部	15	20.0	20.0	40.0	6.7	13.3	0.0	80.0	20.0
	法学部	26	23.1	19.2	30.8	7.7	15.4	3.8	73.1	26.9
	経済学部	46	13.0	32.6	28.3	10.9	4.3	10.9	73.9	26.1
	理系・計	298	21.1	20.1	20.1	12.4	18.1	8.1	61.4	38.6
	医学部	47	17.0	19.1	23.4	12.8	21.3	6.4	59.6	40.4
	歯学部	5	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	80.0	20.0
	薬学部	12	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0	66.7	33.3
	理学部	69	23.2	18.8	23.2	10.1	14.5	10.1	65.2	34.8
	工学部	137	21.9	20.4	16.1	13.1	19.0	9.5	58.4	41.6
	農学部	28	21.4	21.4	21.4	14.3	17.9	3.6	64.3	35.7
性別	男	286	22.4	21.0	19.2	10.8	17.1	9.4	62.6	37.4
	女	148	12.2	25.7	27.7	14.9	15.5	4.1	65.5	34.5
秋入学賛否別	賛成である	48	27.1	22.9	12.5	6.3	10.4	20.8	62.5	37.5
	どちらかといえば賛成している	81	14.8	23.5	30.9	8.6	18.5	3.7	69.1	30.9
	賛成とも反対ともいえない	156	13.5	24.4	23.7	16.7	15.4	6.4	61.5	38.5
	どちらかといえば反対である	92	14.1	22.8	19.6	16.3	23.9	3.3	56.5	43.5
	反対である	59	40.7	15.3	16.9	3.4	10.2	13.6	72.9	27.1
	賛成・計	129	19.4	23.3	24.0	7.8	15.5	10.1	66.7	33.3
	反対・計	151	24.5	19.9	18.5	11.3	18.5	7.3	62.9	37.1

表5 すべての大学で秋入学を実施することは必要か

Q7.2 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／すべての大学で秋入学を実施すること		該当数	非常に必要だと思う	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要でない	必要だとは思わない	まったく必要だとは思わない	必要だと思う・計	必要だと思わない・計
全 体		437	24.0	25.2	16.9	12.6	14.0	7.3	66.1	33.9
学部別	文系・計	137	19.0	24.8	16.8	17.5	14.6	7.3	60.6	39.4
	文学部	50	12.0	24.0	22.0	14.0	18.0	10.0	58.0	42.0
	教育学部	15	13.3	26.7	20.0	6.7	20.0	13.3	60.0	40.0
	法学部	26	30.8	23.1	11.5	15.4	15.4	3.8	65.4	34.6
	経済学部	46	21.7	26.1	13.0	26.1	8.7	4.3	60.9	39.1
	理系・計	298	26.2	25.2	17.1	10.4	13.8	7.4	68.5	31.5
	医学部	47	19.1	31.9	25.5	12.8	8.5	2.1	76.6	23.4
	歯学部	5	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	80.0	20.0
	薬学部	12	16.7	25.0	16.7	25.0	8.3	8.3	58.3	41.7
	理学部	69	37.7	17.4	10.1	13.0	13.0	8.7	65.2	34.8
	工学部	137	25.5	22.6	17.5	8.0	16.8	9.5	65.7	34.3
	農学部	28	17.9	42.9	17.9	7.1	10.7	3.6	78.6	21.4
性別	男	287	26.8	22.6	13.9	12.2	15.3	9.1	63.4	36.6
	女	148	18.2	29.7	23.0	13.5	11.5	4.1	70.9	29.1
秋入学賛否別	賛成である	48	29.2	16.7	14.6	8.3	20.8	10.4	60.4	39.6
	どちらかといえば賛成している	81	23.5	23.5	17.3	23.5	8.6	3.7	64.2	35.8
	賛成とも反対ともいえない	157	22.3	23.6	22.3	14.6	14.0	3.2	68.2	31.8
	どちらかといえば反対である	92	17.4	33.7	17.4	6.5	14.1	10.9	68.5	31.5
	反対である	59	35.6	25.4	3.4	5.1	15.3	15.3	64.4	35.6
	賛成・計	129	25.6	20.9	16.3	17.8	13.2	6.2	62.8	37.2
	反対・計	151	24.5	30.5	11.9	6.0	14.6	12.6	66.9	33.1

表 6 高等学校で早期卒業制度が実施され、秋入学に伴う時間的ロスが軽減されることは必要か

Q7.3 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／高等学校で(2年ないし2.5年で卒業可能とするような)早期卒業制度が実施され、秋入学に伴う時間的ロスが軽減されること		該当数	非常に必要だと思う	必要だと思う	どちらかといえば必要だ	どちらかといえば必要だ	必要だとは思わない	まったく必要だとは思わない	必要だと思う・計	必要だと思わない・計
全 体		437	9.6	17.2	22.2	19.2	21.7	10.1	49.0	51.0
学部別	文系・計	137	7.3	18.2	21.2	22.6	19.7	10.9	46.7	53.3
	文学部	50	8.0	16.0	16.0	32.0	20.0	8.0	40.0	60.0
	教育学部	15	6.7	13.3	40.0	13.3	6.7	20.0	60.0	40.0
	法学部	26	3.8	23.1	15.4	19.2	26.9	11.5	42.3	57.7
	経済学部	46	8.7	19.6	23.9	17.4	19.6	10.9	52.2	47.8
	理系・計	298	10.4	16.8	22.8	17.8	22.5	9.7	50.0	50.0
	医学部	47	10.6	21.3	12.8	27.7	23.4	4.3	44.7	55.3
	歯学部	5	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	20.0	60.0	40.0
	薬学部	12	8.3	33.3	8.3	8.3	25.0	16.7	50.0	50.0
	理学部	69	8.7	17.4	29.0	7.2	23.2	14.5	55.1	44.9
	工学部	137	12.4	13.1	24.1	19.7	20.4	10.2	49.6	50.4
	農学部	28	3.6	21.4	21.4	25.0	28.6	0.0	46.4	53.6
性別	男	287	10.5	17.4	21.6	19.2	20.2	11.1	49.5	50.5
	女	148	7.4	16.9	23.6	19.6	24.3	8.1	48.0	52.0
秋入学賛否別	賛成である	48	16.7	14.6	14.6	22.9	16.7	14.6	45.8	54.2
	どちらかといえば賛成している	81	7.4	21.0	23.5	23.5	21.0	3.7	51.9	48.1
	賛成とも反対ともいえない	157	7.6	17.2	22.9	21.0	24.8	6.4	47.8	52.2
	どちらかといえば反対である	92	5.4	18.5	23.9	16.3	27.2	8.7	47.8	52.2
	反対である	59	18.6	11.9	22.0	10.2	10.2	27.1	52.5	47.5
	賛成・計	129	10.9	18.6	20.2	23.3	19.4	7.8	49.6	50.4
	反対・計	151	10.6	15.9	23.2	13.9	20.5	15.9	49.7	50.3

表 7 移行期間における活動を経済的に支援する制度を導入することは必要か

Q7.4 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／移行期間における活動を経済的に支援する制度を導入すること		該 当 数	非 常 に 必 要 だ と 思 う	必 要 だ と 思 う	ど ち ら か と い え ば 必 要 だ	ど ち ら か と い え ば 必 要 だ	必 要 だ と は 思 わ な い	ま っ た く 必 要 だ と は 思 わ な い	必 要 だ と 思 う ・ 計	必 要 だ と 思 わ な い ・ 計
全 体		437	17.2	27.2	30.7	14.4	7.8	2.7	75.1	24.9
学 部 別	文系・計	137	13.9	34.3	27.7	14.6	5.8	3.6	75.9	24.1
	文学部	50	14.0	44.0	24.0	12.0	4.0	2.0	82.0	18.0
	教育学部	15	13.3	40.0	40.0	6.7	0.0	0.0	93.3	6.7
	法学部	26	11.5	30.8	34.6	15.4	7.7	0.0	76.9	23.1
	経済学部	46	15.2	23.9	23.9	19.6	8.7	8.7	63.0	37.0
	理系・計	298	18.1	24.2	32.2	14.4	8.7	2.3	74.5	25.5
	医学部	47	27.7	25.5	29.8	10.6	4.3	2.1	83.0	17.0
	歯学部	5	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	60.0	40.0
	薬学部	12	0.0	8.3	41.7	41.7	0.0	8.3	50.0	50.0
	理学部	69	23.2	27.5	23.2	10.1	13.0	2.9	73.9	26.1
	工学部	137	16.8	22.6	35.8	16.1	7.3	1.5	75.2	24.8
	農学部	28	7.1	28.6	35.7	7.1	17.9	3.6	71.4	28.6
性 別	男	287	17.8	26.1	30.0	15.0	7.7	3.5	73.9	26.1
	女	148	14.9	29.7	32.4	13.5	8.1	1.4	77.0	23.0
秋 入 学 賛 否 別	賛成である	48	22.9	20.8	20.8	20.8	8.3	6.3	64.6	35.4
	どちらかといえば賛成している	81	21.0	30.9	27.2	18.5	1.2	1.2	79.0	21.0
	賛成とも反対ともいえない	157	10.8	31.8	34.4	14.6	7.6	0.6	77.1	22.9
	どちらかといえば反対である	92	17.4	18.5	38.0	12.0	13.0	1.1	73.9	26.1
	反対である	59	23.7	28.8	22.0	6.8	8.5	10.2	74.6	25.4
	賛成・計	129	21.7	27.1	24.8	19.4	3.9	3.1	73.6	26.4
	反対・計	151	19.9	22.5	31.8	9.9	11.3	4.6	74.2	25.8

表 8 小学校から高等学校まで、すべての教育機関で秋入学を実施することは必要か

Q7.5 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／小学校から高等学校まで、すべての教育機関で秋入学を実施すること		該 当 数	非 常 に 必 要 だ と 思 う	必 要 だ と 思 う	ど ち ら か と い え ば 必 要 だ	ど ち ら か と い え ば 必 要 だ	必 要 だ と は 思 わ な い	ま っ た く 必 要 だ と は 思 わ な い	必 要 だ と 思 う ・ 計	必 要 だ と 思 わ な い ・ 計
全 体		437	13.3	13.7	16.2	19.9	24.5	12.4	43.2	56.8
学 部 別	文系・計	137	9.5	13.1	14.6	23.4	25.5	13.9	37.2	62.8
	文学部	50	8.0	14.0	10.0	26.0	30.0	12.0	32.0	68.0
	教育学部	15	6.7	20.0	20.0	26.7	6.7	20.0	46.7	53.3
	法学部	26	15.4	7.7	15.4	30.8	23.1	7.7	38.5	61.5
	経済学部	46	8.7	13.0	17.4	15.2	28.3	17.4	39.1	60.9
	理系・計	298	15.1	14.1	17.1	18.1	23.8	11.7	46.3	53.7
	医学部	47	8.5	14.9	21.3	17.0	34.0	4.3	44.7	55.3
	歯学部	5	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	60.0	40.0
	薬学部	12	8.3	25.0	16.7	16.7	8.3	25.0	50.0	50.0
	理学部	69	15.9	18.8	20.3	15.9	18.8	10.1	55.1	44.9
	工学部	137	16.1	12.4	11.7	21.9	21.9	16.1	40.1	59.9
	農学部	28	21.4	7.1	25.0	10.7	32.1	3.6	53.6	46.4
性 別	男	287	12.9	14.6	15.3	20.6	22.6	13.9	42.9	57.1
	女	148	14.2	12.2	18.2	18.2	27.7	9.5	44.6	55.4
秋 入 学 賛 否 別	賛成である	48	10.4	8.3	16.7	14.6	27.1	22.9	35.4	64.6
	どちらかといえば賛成している	81	8.6	12.3	16.0	28.4	30.9	3.7	37.0	63.0
	賛成とも反対ともいえない	157	10.2	12.1	15.9	26.1	24.8	10.8	38.2	61.8
	どちらかといえば反対である	92	9.8	21.7	20.7	13.0	26.1	8.7	52.2	47.8
	反対である	59	35.6	11.9	10.2	6.8	10.2	25.4	57.6	42.4
	賛成・計	129	9.3	10.9	16.3	23.3	29.5	10.9	36.4	63.6
	反対・計	151	19.9	17.9	16.6	10.6	19.9	15.2	54.3	45.7

表 9 入学予定者を対象とした、移行期間に行われる各種プログラムを充実させることは必要か

Q7.6 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／入学予定者を対象とした、移行期間に行われる各種プログラムを充実させること		該当数	非常に必要だと思う	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要でない	必要だとは思わない	まったく必要だとは思わない	必要だと思う・計	必要だと思わない・計
全 体		436	28.4	37.6	25.5	5.3	1.8	1.4	91.5	8.5
学部別	文系・計	136	23.5	41.9	26.5	4.4	2.2	1.5	91.9	8.1
	文学部	50	22.0	42.0	28.0	8.0	0.0	0.0	92.0	8.0
	教育学部	15	13.3	66.7	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	法学部	25	20.0	44.0	28.0	0.0	8.0	0.0	92.0	8.0
	経済学部	46	30.4	32.6	26.1	4.3	2.2	4.3	89.1	10.9
	理系・計	298	30.2	35.9	25.2	5.7	1.7	1.3	91.3	8.7
	医学部	47	31.9	34.0	29.8	2.1	2.1	0.0	95.7	4.3
	歯学部	5	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	薬学部	12	25.0	58.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	理学部	69	39.1	34.8	15.9	7.2	1.4	1.4	89.9	10.1
	工学部	137	25.5	38.0	24.8	8.0	1.5	2.2	88.3	11.7
	農学部	28	32.1	21.4	42.9	0.0	3.6	0.0	96.4	3.6
性別	男	287	31.7	34.8	23.7	6.3	1.7	1.7	90.2	9.8
	女	147	21.1	43.5	29.3	3.4	2.0	0.7	93.9	6.1
秋入学賛否別	賛成である	48	33.3	29.2	22.9	8.3	4.2	2.1	85.4	14.6
	どちらかといえば賛成している	81	27.2	42.0	25.9	1.2	3.7	0.0	95.1	4.9
	賛成とも反対ともいえない	156	26.9	42.3	23.1	6.4	0.6	0.6	92.3	7.7
	どちらかといえば反対である	92	22.8	39.1	31.5	4.3	2.2	0.0	93.5	6.5
	反対である	59	39.0	23.7	23.7	6.8	0.0	6.8	86.4	13.6
	賛成・計	129	29.5	37.2	24.8	3.9	3.9	0.8	91.5	8.5
	反対・計	151	29.1	33.1	28.5	5.3	1.3	2.6	90.7	9.3

表 10 「学生割引」など、学生を対象とした優遇措置を入学予定者へも適用することは必要か

Q7.7 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／「学生割引」など、学生を対象とした優遇措置を入学予定者へも適用すること		該 当 数	非 常 に 必 要 だ と 思 う	必 要 だ と 思 う	ど ち ら か と い え ば 必 要 だ	ど ち ら か と い え ば 必 要 だ	必 要 だ と は 思 わ ない	ま っ た く 必 要 だ と は 思 わ ない	必 要 だ と 思 う ・ 計	必 要 だ と 思 わ ない ・ 計
全 体		436	35.6	34.4	19.7	6.9	3.0	0.5	89.7	10.3
学 部 別	文系・計	137	30.7	36.5	24.8	4.4	2.9	0.7	92.0	8.0
	文学部	50	32.0	38.0	28.0	0.0	2.0	0.0	98.0	2.0
	教育学部	15	20.0	46.7	26.7	6.7	0.0	0.0	93.3	6.7
	法学部	26	34.6	34.6	15.4	11.5	3.8	0.0	84.6	15.4
	経済学部	46	30.4	32.6	26.1	4.3	4.3	2.2	89.1	10.9
	理系・計	297	37.4	33.7	17.5	8.1	3.0	0.3	88.6	11.4
	医学部	47	40.4	31.9	14.9	8.5	4.3	0.0	87.2	12.8
	歯学部	5	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	80.0	20.0
	薬学部	12	41.7	41.7	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	理学部	69	44.9	33.3	14.5	4.3	1.4	1.4	92.8	7.2
	工学部	136	31.6	35.3	18.4	11.0	3.7	0.0	85.3	14.7
	農学部	28	39.3	28.6	25.0	3.6	3.6	0.0	92.9	7.1
性 別	男	286	34.6	31.8	20.6	8.7	4.2	0.0	87.1	12.9
	女	148	36.5	39.9	18.2	3.4	0.7	1.4	94.6	5.4
秋 入 学 賛 否 別	賛成である	48	47.9	33.3	6.3	2.1	6.3	4.2	87.5	12.5
	どちらかといえば賛成している	81	39.5	37.0	16.0	6.2	1.2	0.0	92.6	7.4
	賛成とも反対ともいえない	157	31.8	33.8	26.8	5.7	1.9	0.0	92.4	7.6
	どちらかといえば反対である	92	27.2	41.3	18.5	8.7	4.3	0.0	87.0	13.0
	反対である	58	43.1	22.4	19.0	12.1	3.4	0.0	84.5	15.5
	賛成・計	129	42.6	35.7	12.4	4.7	3.1	1.6	90.7	9.3
	反対・計	150	33.3	34.0	18.7	10.0	4.0	0.0	86.0	14.0

表 11 移行期間における部活動やサークル活動への参加を認めることは必要か

Q7.8 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／移行期間における部活動やサークル活動への参加を認めること		該 当 数	非 常 に 必 要 だ と 思 う	必 要 だ と 思 う	ど ち ら か と い え ば 必 要 だ	ど ち ら か と い え ば 必 要 だ	必 要 だ と は 思 わ な い	ま っ た く 必 要 だ と は 思 わ な い	必 要 だ と 思 う ・ 計	必 要 だ と 思 わ な い ・ 計
全 体		436	16.7	31.2	27.3	15.4	6.7	2.8	75.2	24.8
学 部 別	文系・計	137	13.9	28.5	27.7	19.0	6.6	4.4	70.1	29.9
	文学部	50	12.0	30.0	34.0	14.0	8.0	2.0	76.0	24.0
	教育学部	15	6.7	33.3	20.0	40.0	0.0	0.0	60.0	40.0
	法学部	26	7.7	19.2	30.8	26.9	7.7	7.7	57.7	42.3
	経済学部	46	21.7	30.4	21.7	13.0	6.5	6.5	73.9	26.1
	理系・計	297	17.8	32.7	27.3	13.8	6.4	2.0	77.8	22.2
	医学部	46	8.7	34.8	30.4	15.2	10.9	0.0	73.9	26.1
	歯学部	5	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	80.0	20.0
	薬学部	12	16.7	50.0	8.3	8.3	16.7	0.0	75.0	25.0
	理学部	69	29.0	29.0	21.7	11.6	5.8	2.9	79.7	20.3
	工学部	137	18.2	35.0	27.7	12.4	3.6	2.9	81.0	19.0
	農学部	28	7.1	25.0	32.1	25.0	10.7	0.0	64.3	35.7
性 別	男	286	19.9	29.4	26.2	17.1	5.2	2.1	75.5	24.5
	女	148	10.1	35.1	29.7	12.2	8.8	4.1	75.0	25.0
秋 入 学 賛 否 別	賛成である	47	27.7	29.8	14.9	14.9	8.5	4.3	72.3	27.7
	どちらかといえば賛成している	81	9.9	39.5	30.9	13.6	4.9	1.2	80.2	19.8
	賛成とも反対ともいえない	157	14.0	28.7	33.1	13.4	8.3	2.5	75.8	24.2
	どちらかといえば反対である	92	10.9	33.7	25.0	21.7	4.3	4.3	69.6	30.4
	反対である	59	33.9	23.7	20.3	13.6	6.8	1.7	78.0	22.0
	賛成・計	128	16.4	35.9	25.0	14.1	6.3	2.3	77.3	22.7
	反対・計	151	19.9	29.8	23.2	18.5	5.3	3.3	72.8	27.2

表 12 卒業と就職との間にギャップが生じないような採用システムをつくることは必要か

Q7.9 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／卒業と就職との間にギャップが生じないような採用システムをつくること		該当数	非常に必要だと思う	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要でない	必要だとは思わない	まったく必要だとは思わない	必要だと思う・計	必要だと思わない・計
全 体		435	54.0	30.1	12.4	2.1	0.0	1.4	96.6	3.4
学部別	文系・計	136	47.8	33.1	15.4	2.2	0.0	1.5	96.3	3.7
	文学部	49	44.9	38.8	12.2	2.0	0.0	2.0	95.9	4.1
	教育学部	15	26.7	46.7	20.0	6.7	0.0	0.0	93.3	6.7
	法学部	26	61.5	30.8	7.7	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	経済学部	46	50.0	23.9	21.7	2.2	0.0	2.2	95.7	4.3
	理系・計	297	56.6	29.0	11.1	2.0	0.0	1.3	96.6	3.4
	医学部	47	59.6	31.9	8.5	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	歯学部	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	薬学部	12	25.0	58.3	8.3	0.0	0.0	8.3	91.7	8.3
	理学部	69	68.1	17.4	10.1	2.9	0.0	1.4	95.7	4.3
	工学部	136	53.7	30.9	11.8	2.2	0.0	1.5	96.3	3.7
	農学部	28	50.0	32.1	14.3	3.6	0.0	0.0	96.4	3.6
性別	男	286	53.5	30.1	12.6	2.1	0.0	1.7	96.2	3.8
	女	147	54.4	30.6	12.2	2.0	0.0	0.7	97.3	2.7
秋入学賛否別	賛成である	47	48.9	38.3	6.4	2.1	0.0	4.3	93.6	6.4
	どちらかといえば賛成している	81	54.3	29.6	12.3	2.5	0.0	1.2	96.3	3.7
	賛成とも反対ともいえない	156	51.3	28.8	17.3	1.9	0.0	0.6	97.4	2.6
	どちらかといえば反対である	92	52.2	37.0	8.7	2.2	0.0	0.0	97.8	2.2
	反対である	59	67.8	16.9	10.2	1.7	0.0	3.4	94.9	5.1
	賛成・計	128	52.3	32.8	10.2	2.3	0.0	2.3	95.3	4.7
	反対・計	151	58.3	29.1	9.3	2.0	0.0	1.3	96.7	3.3

表 13 現在の就職活動における新卒一括採用への偏重を是正することは必要か

Q7.10 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。／現在の就職活動における新卒一括採用(定期採用)への偏重を是正すること		該当数	非常に必要だと思う	必要だと思う	どちらかといえば必要だ	どちらかといえば必要だ	必要だとは思わない	まったく必要だとは思わない	必要だと思う・計	必要だと思わない・計
全 体		435	43.7	30.1	20.5	3.4	1.6	0.7	94.3	5.7
学部別	文系・計	137	48.2	30.7	16.8	2.2	1.5	0.7	95.6	4.4
	文学部	50	48.0	32.0	16.0	4.0	0.0	0.0	96.0	4.0
	教育学部	15	40.0	40.0	13.3	6.7	0.0	0.0	93.3	6.7
	法学部	26	46.2	30.8	19.2	0.0	3.8	0.0	96.2	3.8
	経済学部	46	52.2	26.1	17.4	0.0	2.2	2.2	95.7	4.3
	理系・計	296	41.2	30.1	22.3	4.1	1.7	0.7	93.6	6.4
	医学部	47	31.9	44.7	19.1	2.1	2.1	0.0	95.7	4.3
	歯学部	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	薬学部	12	16.7	58.3	16.7	0.0	0.0	8.3	91.7	8.3
	理学部	67	46.3	26.9	22.4	1.5	3.0	0.0	95.5	4.5
	工学部	137	43.8	25.5	22.6	6.6	0.7	0.7	92.0	8.0
	農学部	28	39.3	25.0	28.6	3.6	3.6	0.0	92.9	7.1
性別	男	285	42.5	29.1	22.5	3.2	2.1	0.7	94.0	6.0
	女	148	45.3	32.4	16.9	4.1	0.7	0.7	94.6	5.4
秋入学賛否別	賛成である	48	54.2	29.2	12.5	0.0	2.1	2.1	95.8	4.2
	どちらかといえば賛成している	81	40.7	34.6	23.5	1.2	0.0	0.0	98.8	1.2
	賛成とも反対ともいえない	157	39.5	29.9	24.2	5.1	1.3	0.0	93.6	6.4
	どちらかといえば反対である	90	36.7	36.7	18.9	4.4	3.3	0.0	92.2	7.8
	反対である	59	61.0	15.3	15.3	3.4	1.7	3.4	91.5	8.5
	賛成・計	129	45.7	32.6	19.4	0.8	0.8	0.8	97.7	2.3
	反対・計	149	46.3	28.2	17.4	4.0	2.7	1.3	91.9	8.1

Q 8 春入学，秋始業スケジュール案の賛否

いくつかの大学が導入を検討している「春入学，秋始業案」を図示し（右図），それへの賛否を尋ねた。

『a. 賛成である』『b. どちらかといえば賛成している』の回答の合計である『賛成・計』は約 30%，『d. どちらかといえば反対である』『e 反対である』の回答の合計である『反対・計』は 30%台後半であり，賛成と反対，その他の立場の学生の割合が拮抗していることが示された。

ただし，秋入学賛否別に見てみると，秋入学賛成の立場の学生は『賛成・計』が 42.6%であるのに対し，秋入学反対の立場の学生は『反対・計』55.6%であり，入学時期が春か秋かの問題ではなく，始業が秋であることに対して反対意見をもっていることがうかがわれる。

秋入学スケジュール案														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
現行	入学		夏学期				冬学期							
★新スケジュール案														
1年目	入学	ブ フ ロ レ ッ グ ラ シ ュ	サマ ー プ ロ グ ラ ム			1学期					2学期			
		希望者は 自主的な活動												
2年目	2学期		サマ ー プ ロ グ ラ ム			3学期					4学期			
3年目	4学期		サマ ー プ ロ グ ラ ム			5学期					6学期			
4年目	6学期		サマ ー プ ロ グ ラ ム			7学期					8学期	卒業		
										長期休業				

 長期休業

表 14 「春入学，秋始業」の案について，どのように思うか

Q8 現在、日本のいくつかの大学で秋入学に関して検討が進められていますが、その中では本調査で仮定したような「秋入学、夏卒業」とせず、右の図のような、入学時期を現行通りとし、始業を秋にするという案(実質3.5年の修学期間)が提案されています。こうした秋始業の案について、あなたご自身はどのように思いますか		該 当 数	a ・ 賛 成 で ある	b ・ ど ち ら か と い え ば 賛 成	c ・ え な い ・ 賛 成 と も 反 対 と も い え ない	d ・ 対 で ある ・ ど ち ら か と い え ば 反 対	e ・ 反 対 で ある	賛 成 ・ 計	反 対 ・ 計
全 体			436	8.7	20.6	33.5	24.1		
学 部 別	文系・計	137	8.0	23.4	31.4	25.5	11.7	31.4	37.2
	文学部	50	8.0	30.0	22.0	30.0	10.0	38.0	40.0
	教育学部	15	6.7	20.0	20.0	20.0	33.3	26.7	53.3
	法学部	26	3.8	26.9	26.9	30.8	11.5	30.8	42.3
	経済学部	46	10.9	15.2	47.8	19.6	6.5	26.1	26.1
	理系・計	297	9.1	19.5	34.7	23.6	13.1	28.6	36.7
	医学部	47	4.3	29.8	25.5	29.8	10.6	34.0	40.4
	歯学部	5	20.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	20.0
	薬学部	12	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	50.0
	理学部	69	14.5	18.8	24.6	26.1	15.9	33.3	42.0
	工学部	137	6.6	20.4	40.9	18.2	13.9	27.0	32.1
	農学部	27	18.5	11.1	33.3	33.3	3.7	29.6	37.0
性 別	男	287	9.8	20.9	32.1	23.3	13.9	30.7	37.3
	女	147	6.8	20.4	36.7	25.9	10.2	27.2	36.1
秋 入 学 賛 否 別	賛成である	48	25.0	16.7	29.2	16.7	12.5	41.7	29.2
	どちらかといえば賛成している	81	8.6	34.6	32.1	17.3	7.4	43.2	24.7
	賛成とも反対ともいえない	156	9.0	23.7	39.1	22.4	5.8	32.7	28.2
	どちらかといえば反対である	92	4.3	15.2	31.5	41.3	7.6	19.6	48.9
	反対である	59	1.7	5.1	27.1	16.9	49.2	6.8	66.1
	賛成・計	129	14.7	27.9	31.0	17.1	9.3	42.6	26.4
	反対・計	151	3.3	11.3	29.8	31.8	23.8	14.6	55.6

※ 『a. 賛成である』『b. どちらかといえば賛成している』『c. 賛成とも反対ともいえない』『d. どちらかといえば反対である』『e 反対である』の 5 件法。『賛成・計』は『a. 賛成である』と『b. どちらかといえば賛成している』との、『反対・計』は『d. どちらかといえば反対である』と『e 反対である』との回答の合計。

Q8-2 春入学・秋始業案に対する自由記述

続けて、春入学・秋始業案に関する賛否の理由について自由記述で回答を求めた。

187名（42.8%）が何らかの記述をし、そのべ件数は235件となり、回答者の比率の高さはこの案に対する学生の関心の強さを表している。これら自由記述を以下の現行スケジュールと比較した際の6つの特徴に着目して整理した（表15）。

表15 春入学・秋始業案の特徴とそれらに対する意見数

特徴	内容	意見数
1.入学・卒業時期の不変	4月入学・3月卒業という点で現行スケジュールと変わらないこと	37
2.9月始業	海外大学との交流促進のため始業時期を9月にすること	9
3.開講期間の縮減	上記1.2.の点から開講期間が3.5年に縮減されること	55
4.空白期間の出現	上記1.2.の点から、大学入学後、始業まで、正式な授業が行われない6か月の期間が出現すること	39
5.夏季休業とサマープログラム	各学年において、より長期の夏季休みが設定され、サマープログラムが実施されること	33
6.その他学事歴の大幅な変更	開講月、春休みなど大きく現行と異なってくること	50
※全般	上記の諸特徴に基づかないその他の意見	12

以下では、この諸特徴に沿って自由記述の概要を示す。

1. 入学・卒業時期の不変

「秋から授業がスタートするが、入学も卒業も現行のまま」というのがこの案の最大の特徴である。この特徴に関連して、37件の自由回答が記されたが、これに対して更に整理を行った。手順としては、まず賛成の意見か反対の意見かに分け、更に内容の類似性により分類し、複数の記述から構成されるものを下位カテゴリとして抽出した。結果を表16に示す。

賛否でいえば、賛成31件（83.8%）、反対5件（13.5%）、保留1件（2.7%）となり、賛成が大部分を占める。しかしながら、賛成の下位カテゴリとしては、就職等に支障が出ないと予測する「他の社会制度とのずれの少なさ」、大学生という肩書を有することができるという「無所属回避」、現行制度からの漠然とした「変化の少ないこと」など、積極的な賛成というよりは保守的な意味合いでの消極的賛成がその多くを占めていることに気が付く。このほかの賛成の理由では「季節感」があった。一方、反対の意見としては夏に卒業すべきという意見が認められる。

2. 9月始業

第2の特徴である「9月始業」に関しては、賛否が拮抗（賛成：5件、反対：4件）しており、その内容も留学を中心とする国際交流が盛んになると見込むか否かの点に集中している(表17)。

表16 「入学・卒業時期の不变」に関する賛否

賛否	下位カテゴリ	件数	代表的記述
賛成	他の社会制度とのずれの少なさ	14	卒業の時期が変わらないことや、就職に支障が出ないと思われるから。
	無所属回避	9	大学に入学しているという安心感があるから。
	変化の少ないこと	6	これが1番現行制度からの移行を考えると、現実的な案だと思います。
	季節感	2	入学は桜が咲く季節が良い。
反対	夏卒業	5	日本の制度に合わせたスケジュールにするという考えも分かるが、やるなら海外と同様のものにするべきだと思う。
保留		1	卒期が他の学生と一緒にではなく、夏卒業などにしておけば新卒の就活にもそれなりのチャンスを得られると思う。勿論、夏卒を踏まえた上での募集を行うのであればの話ですが。そういった面を抜きにするのであれば、特に現行の案でも構わないと思います。

表17 「9月始業」に関する賛否

賛否	下位カテゴリ	件数	代表的記述
賛成	国際化への期待	5	秋入学を実施することによって、海外へ留学する人が増え、同時に海外から日本へ留学に来る人が増え、社会がより流動的に活発化することが確実に見込まれるなら、実施すべきだろう。
反対	国際化への疑問	4	秋入学を導入したからといって、留学が盛んになるとは限らない。

3. 開講期間の縮減

3.5年に開講が縮減される点に関しては、先に挙げた6つの特徴の中では最多である55件の自由記述が認められた。その賛否は、賛成3件(5.5%)、反対51件(92.7%)、保留1件(1.8%)となり、反対が圧倒的に多い(表18)。

賛成者は、現行のカリキュラムには時間的な余裕があると考えており「実現可能」と判断している。

一方で、反対者の理由には、特段の「理由の明示のない反対」が最も多くを占めているが、「修得内容減少への懸念」「詰め込みへの懸念」「しわ寄せへの懸念」など、縮減から生じうる種々の好ましくない事態に意識を向けている者も多い。また、そもそも縮減に見合うメリットがあるのかという疑問(「低利益・高コスト」)を持つものも存在する。

表 18 「修学期間の縮減」に関する自由記述

賛否	下位カテゴリ	件数	代表的記述
賛成	実現可能	3	時間を持て余している人が大勢いるから、実質3.5年にしても変わらない。
反対	理由の明示のない反対	20	現在の制度よりも大学での学習期間が短くなるのはよくないと思う。
	修得内容減少への懸念	11	学力を身につけられるか不安。
	詰め込みへの懸念	8	半年短くなる分、授業に時間的なゆとりがなくなるのではないか。
	しわ寄せへの懸念	7	卒業研究などの時間が実質削られてしまっていると思う。
	低利益・高コスト	5	実質的な修学期間を短くしてまで「国際化」する必要があるのか？
保留		1	現行のカリキュラムから量をへらすのか分からないから。

4. 空白期間の出現

大学入学後、始業までの6か月間正式な授業が行われない期間が出現することに関しては、賛成11件（28.2%）、反対27件（69.2%）、保留1件（2.5%）となり、反対が7割を占めている（表19）。

賛成理由は「自由時間への期待」「フレッシュプログラム等への期待」の2つに大別され、新入生の意欲あふれる姿勢を反映している。

一方、反対理由には「時間の無駄」「意欲の低下への懸念」「自主的な活動への懸念」などが挙げられた。「時間の無駄」は空白期間を有意義に利用できないという否定的な態度を示し、「意欲の低下への懸念」「自主的な活動への懸念」は共に学生の入学前の動機づけの高さが維持されないことを見越したものである。「保留」の意見に見られるように、ここでの賛否は「結局は空白の期間に何をするか」に依ってくるものであろう。

表 19 「空白期間の出現」に関する自由記述

賛否	下位カテゴリ	件数	代表的記述
賛成	自由時間への期待	7	受験が終わった後の半年間という期間に、受験中にできなかった体験や受験中のモチベーションのままでさまざまなことを行うということに意味があると思う。
	フレッシュプログラム等への期待	4	秋までの期間を空白にせず、何らかのプログラムを挟んだ方が建設的で良いと考えたから。
反対	時間の無駄	11	春に入学し、半年も本格的な授業を行わないというのであれば、何のために入学したのかわからなくなる。
	意欲の低下への懸念	10	入学当初は学生のモチベーションも総じて高く、入学直後に長期休暇に入ることは、そのモチベーションを潰しかねない。

自主的な活動への懸念	4	「フレッシュ・サマープログラム」選択者と「自主的な活動」選択者との間で小さからぬ格差が生まれそうだから。
その他の反対	2	0.5 年分の経済的負担
保留	1	結局は空白の期間に何をするかが重要

5. 夏季休業とサマープログラム

前述の空白期間のうち後半の 3 カ月は、上級生にとって夏季休業ないしはサマープログラムに相当する。夏季休業は現行より約 1 カ月長くなっている。夏季休業の長さまたはサマープログラムの実施に対する賛否は、賛成 5 件 (15.2%)、反対 15 件 (45.5%)、保留 13 件 (39.4%) となり、保留の比率の高さが目を引く。保留の理由のほとんどは、サマープログラムの詳細が不明なことに起因している (表 20)。

賛成の意見は、「夏休みが長期化」「サマープログラムへの期待」に大別される。

一方で、反対理由の最も多い意見は「サマープログラムへの疑義」であり、夏季休業中といえども半ば強制的にサマープログラムへの参加を促されるのではないかという懸念を中心としている。続いて「サマープログラム・夏休みの長さ」であり、これらは賛成の理由の裏返しとなっている点が興味深い。また「怠惰に過ごすことへの懸念」も挙げられ、ここでの自由記述は総じて、先に見た“空白期間の出現”の理由と同様、自由に活動できる長い期間において自分を律してゆけるか否かという点に集約されよう。

表 20 「夏季休業とサマープログラム」に関する自由記述

賛否	下位カテゴリ	件数	代表的記述
賛成	夏休みの長期化	3	まとまった自由活動の時間が増えるのは良い。
	サマープログラムへの期待	2	サマープログラムで個人の裁量に任せて多様な学習活動が行えると思うから。
反対	サマープログラムへの疑義	7	大学側がプログラムを準備すると、学生が本当にやりたい活動をできなくなる可能性があり、メリットを感じられないから。
	サマープログラム・夏休みの長さ	4	サマープログラムを行うとはいえ、さすがに夏休みが長過ぎると思う。
	怠惰に過ごすことへの懸念	3	夏の休みの期間があまりにも長く、大学での学習内容を忘れたり、自分を律せなくなったりしそうだから。
	その他の反対	1	サマープログラムの内容が定かでないため、具体的なことは言えないが、家庭の状況によってサマープログラムの取り組み方も変わってくると考える。その結果として、生徒の間に大きな差が生まれる可能性があるのではないかと。
保留		13	サマープログラムがどのようなものかわからないし、何とも言えない。

6. その他学事歴の大幅な変更

春入学・秋始業のスケジュール案は、夏季休業の長期化以外にも多くの点で現行の学事歴と異なってくる。“その他の学事歴の大幅な変更”はそれらの変更点に関してまとめたもので、50件と比較的多くの件数を数える。賛否の内訳は、賛成2件(4.0%)、反対47件(94.0%)、保留1件(2.0%)、と反対が大多数を占めている(表21)。

最も多かった反対意見は、一か月弱になると思われる「春休みの短縮」である。また、夏季休業の長さに関連して「長期休業のバランスの悪さ」に言及するものも多い。また、第8セメスターは他のセメスターと比べ半分以上の長さで見込まれるがこれに対する反対意見(「第8セメスターの短さ」)も多い。更に、2月は開講期間に充てられるが、東北地方にあっては降雪時期となるため「冬季の通学」に懸念を示す者もいる。このほか、変更全般に関する理由となるが、「伝統の破壊」「変化への抵抗感」「高コスト」「格差の出現」などの意見が認められた。

表21 「その他学事歴の大幅な変更」に関する自由記述

賛否	下位カテゴリ	件数	代表的記述
賛成	—	2	半年遅れの入学生のカリキュラムとしては無難で妥当だと思う。
反対	春休みの短縮	13	春休みも欲しいです。
	第8セメスターの短さ	7	8学期の存在意義が分からない。
	長期休業のバランスの悪さ	6	長期休業の夏と春のバランスが悪い事。長期休みは分割されていた方が自由度が高いから。
	冬季の通学	5	また、多降雪地域限定の問題ではあるが、最も降雪量の多い2、3月に授業期間を設けると、公共交通機関ダウンや路面凍結によって、通学が困難となる学生の増加に繋がる可能性がある。
	伝統の破壊	4	今までの日本の伝統を崩すべきではない。
	変化への抵抗感	3	今のスケジュールに慣れてしまっているから。
	高コスト	3	秋入学の導入にあたって、教授たちや大学側、さらに在学中の学生にも対応を求めなければならない。
	格差の出現	3	一部の大学で導入されただけでは他大学との差もある。
	その他の反対	3	休日の日程や学位のシステムについても、慎重に議論されるべきである。
保留		1	自分が在学中にはあまり一年のスケジュールのリズムをかえてほしくないが、今の案が採用されたら採用されたうまく適応はできると思うから。

以上、総じて春入学・秋始業のスケジュール案に対しては反対の自由記述が多く、自由記述を記載するような関心の高い学生は、変化に対し抵抗を感じる慎重なあるいは保守的な学生が多いことが示唆される。反対の理由としては、(1)始業までの半年間あるいは各学年における長期の夏季休業において生産的な活動ができないのではないかという懸念、(2)3.5年という授業実施期間の短縮から生じる

修学上の懸念、(3)サマープログラムの不透明さ、などに集約される。一方でこれら反対派の学生にとっては、秋始業の目的である“国際化”が、これらの懸念と釣り合うほどの魅力を有していないと考えることができる。

秋入学や秋始業を目指す大学は、学生たちの前述の懸念の払拭と共にそのメリットや必要性も伝える努力も必要となろう。

Q9 最も魅力を感じる入学・卒業時期の方式

「Q9 大学の入学や卒業の時期に関して、どの方式に最も魅力を感じますか」に対して、『a. 春入学・春卒業とし、そのまますぐに就職する方式(現行通り)』を選択した学生の割合がもっとも多かった(44.0%)。この傾向は、秋入学賛否別での秋入学反対の立場の学生において顕著であった(79.7%)。秋入学賛成の立場の学生においては、多かった順に『c. 秋入学・夏卒業とし、そのまま秋にすぐ就職する方式(現在の採用システムも変える)』(39.1%)、『b. 秋入学・夏卒業とし、翌春の就職までの間にも移行期間を有する方式』(32.0%)、『d. 上記 Q7 で提案されているような春入学・秋始業・春卒業とする方式』(18.0%)、『a. 春入学・春卒業とし、そのまますぐに就職する方式(現行通り)』(7.8%)であり、何らかの変更を期待している学生が多いことが示唆された。

表 22 「Q9 大学の入学や卒業の時期に関して、あなたは、どの方式に最も魅力を感じますか」

Q9 大学の秋入学をめぐる検討については、本調査で仮定したような「秋入学、夏卒業」や上記Q8で述べたような「春入学、秋始業、春卒業」とは異なるやり方があると考えられます。そこで、大学の入学や卒業の時期に関して、あなたは以下のa.~e.選択肢のうち、どの方式に最も魅力を感じますか。あてはまるもの1つにだけ、その記号に○をつけてください		該当数	に春就職する・春方式（現行、そのまますぐ）	で秋の入学にも夏移行期間を有する春の就職方式	テす秋ムぐ入も就学変職・えする卒業方式（現、その採用ま秋スに）	上記Q7	～その他の方式（具体的に）
全 体		430	44.0	17.9	22.1	13.3	2.8
学部別	文系・計	135	49.6	22.2	14.8	11.1	2.2
	文学部	50	50.0	24.0	10.0	14.0	2.0
	教育学部	15	80.0	6.7	0.0	13.3	0.0
	法学部	25	40.0	24.0	24.0	12.0	0.0
	経済学部	45	44.4	24.4	20.0	6.7	4.4
	理系・計	293	41.6	15.7	25.3	14.3	3.1
	医学部	47	46.8	21.3	12.8	17.0	2.1
	歯学部	5	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0
	薬学部	12	33.3	25.0	33.3	8.3	0.0
	理学部	68	45.6	10.3	29.4	11.8	2.9
	工学部	135	41.5	13.3	25.2	17.0	3.0
	農学部	26	34.6	26.9	23.1	7.7	7.7
性別	男	282	41.8	16.3	24.8	13.1	3.9
	女	146	48.6	20.5	16.4	13.7	0.7
秋入学賛否別	賛成である	47	4.3	36.2	31.9	19.1	8.5
	どちらかといえば賛成している	81	9.9	29.6	43.2	17.3	0.0
	賛成とも反対ともいえない	154	39.6	17.5	24.7	16.2	1.9
	どちらかといえば反対である	90	73.3	7.8	5.6	8.9	4.4
	反対である	58	89.7	3.4	3.4	1.7	1.7
	賛成・計	128	7.8	32.0	39.1	18.0	3.1
	反対・計	148	79.7	6.1	4.7	6.1	3.4

Q10 秋入学導入や移行期間に関する心配・希望すること

1.各カテゴリーの構造および下位分類

Q10 の秋入学の導入や移行期間に関して心配な点や希望することの自由記述方式における分類として、KJ 法を採用して分析を行った。調査協力者 437 名のうち、問 10 の回答数は 159 であり、回答率は 36.38%であった。また、複数のカテゴリーにわたって記載がある場合は、複数回答として複数のカテゴリーに分類するように割り当てた。その結果、以下の 3 つのカテゴリーに分類された。

I に関しては、秋入学の導入や移行期間に関しての様々な個人的不安や問題点に関して記載されていたことから、「個人の抱える不安や問題」と名付けた。

II に関しては、移行期間内での様々な制度の充実や、統一的以降制度の導入についての意見、生徒間・学校間の格差の点、制度上の改善点および説明責任などといった点に関して記載されていることから、「制度上の不安や問題」と名付けた。

III に関しては、文化的配慮した秋入試への不支持的な意見や、準備期間の確保等の支持的な意見などから、「支持・不支持に関する意見」と名付けた。

次に、各カテゴリーの下位分類において、度数が 2 以上のものをカテゴリーにまとめた。また、各カテゴリーの回答例に関しては、調査協力者の自由記述文章を要約したものである。

「I. 個人の抱える不安や問題」の下位カテゴリーとして、＜秋に就職する制度の必要性＞や、＜就職活動の心配＞などの“就職への不安(n=23)”，＜金銭的に親に迷惑はかけられないこと＞や、＜経済的負担が増加する＞などの“経済面への不安(n=14)”，＜授業のない間の学力低下が著しい＞や、＜移行期間は遊ぶ時間になってしまい、学生の質が下がる＞などの“学力面への不安(n=14)”，＜移行期間における生活がどのようなものになるかが心配＞や、＜だらだらと生活してしまう恐れ＞などの“生活面への不安(n=14)”，＜何をして良いのか分からない＞や、＜高卒後いきなり半年間も暇にするのだけは避けて欲しい＞などの“時間の使用方法への不安(n=8)”，＜大学入試後のモチベーションを保てるか＞や、＜高校から大学までの半年間で意欲がなくなってしまうことが不安＞などの“モチベーション低下への不安(n=7)”，＜高校生とも大学生とも言いにくい微妙な立場に置かれる＞や、＜社会的身分がはっきりしない＞などの“所属や身分の不安定さ(n=7)”，＜寮への入寮可能時期が分からない＞や、＜部屋探しは困難になりそう＞などの“住居の移転等の問題(n=4)”が挙げられた(表 23)。

「II. 制度上の不安や問題」の下位カテゴリーとして、＜移行期間中の勉強・サークル・ゼミのプログラムがあると思う＞や、＜始業前でも授業の聴講のみできるようにしてほしい＞などの“移行期間のプログラムの充実(n=35)”，＜秋入学を導入するにあたって、大学だけでなく小～高校までの教育期間や就職に関しても何かしら変える必要は出てくるだろう＞や、＜入学時期を変更するなら、大学だけでなく徹底的に変えるべきだ＞などの“統一的移行制度の導入(n=19)”，＜秋入学を採用して得られるメリットがよく分からないので、しっかり説明して欲しい＞や、＜なぜグローバル化しなくてはいけないのか分からない＞などの“意義やメリット・デメリット等の説明不足(n=10)”，＜生徒間での格差が大きくなるのではないかと不安がある＞や、＜大学に入学してからの、春入学の学生との差を埋められるようにしたい＞などの“生徒間格差の問題(n=9)”，＜英語が話せない、書けないという現状では留学を希望する人は出ないと思う＞や、＜秋入学にしたからと言って留学希望者が大幅に増えるとは思えない＞などの“留学制度の改善・充実(n=7)”，＜大学ごとに差が生じること（卒業時期）＞や、＜学秋入学を実施していない大学の学生との就職の差＞などの“学校間格差の問題(n=6)”，＜結論がまとまらないうちに実施して、後から制度が変わっていき振り回されること＞や、

＜何かしらの問題が生じて春入学に戻したなら、秋入学者は振り回されてしまう＞などの“不安定な制度の問題(n=2)”が挙げられた(表 24)。

「Ⅲ. 支持・不支持に関する意見」の下位カテゴリーとして、＜春には春の風景の中で、別れと出会いがあって欲しい＞や、＜春入学は日本の文化の一部であると思うので、そこは今まで通りにして欲しい＞などの“文化的配慮の必要性(n=8)”，＜秋入学になれば時間もでき、旅行など色々なことができて大変良いと思う＞や、＜1人暮らしを始める人にとっては準備期間になりとても嬉しい＞などの“準備期間の確保(n=6)”，＜全ての不安を取り除けない限りは、秋入学等を導入するのには慎重になった方が良くと思う＞や、＜早く次のステップに行きたいのに立ち止まるのは嫌だ＞などの“不支持の意見(n=6)”が挙げられた(表 25)。

また、「その他」としては、“特になし”が6名存在し、それ以外としては共通性があるカテゴリーを見出されなかった。

表 23 個人の抱える不安や問題の下位カテゴリー

カテゴリーを構成する要因		回答例
I 個 人 の 抱 え る 不 安 や 問 題	就職への不安(n=23)	秋に就職する制度の必要性。 就職活動はどうなるのか。 卒業と就職のギャップが不安。
	経済面への不安(n=14)	親に学費を払ってもらっているわけなので、迷惑はかけられない。 高校卒業から就職までの期間が長くなるので、経済的負担が増加する。 移行期間に提供されるプログラムなどの経済的負担。
	学力低下への不安(n=14)	授業のない間の学力低下が著しい。 移行期間は遊ぶ時間になってしまい、全体として学生の質が下がる。 高校で学んだことの記憶の維持も大変。
	生活面への不安(n=14)	移行期間における生活がどのようなものになるかが、最も心配。 移行期間が生じることで、自分が墮落した生活を送ってしまうのではないかと不安。 だらだらと生活して何もせずに終わってしまいそう。
	時間の使用方法への不安(n=8)	何をして良いのか分からない。 高卒後いきなり半年間も暇にするのだけは避けて欲しい。 移行期間に受験が終わった学生たちは暇を持て余すと思う。
	モチベーション低下への不安(n=7)	大学入試後のモチベーションを保てるか。 高校から大学までの半年間で、意欲がなくなってしまうことが不安。 勉学への意欲の低下。
	所属や身分の不安定さ(n=7)	高校生とも大学生とも言いにくい微妙な立場に長い時間おかれること。 社会的な身分がはっきりしていない。 移行期間という身分が定まっていないのはあまりよくない。
	住居の移転等の問題(n=4)	寮への入寮可能時期。4月からなのか秋からなのか分かれると良い。 部屋探しが困難になりそうな点。 地方から一人暮らしを始める場合の措置。

表 24 制度上の不安や問題の下位カテゴリー

カテゴリーを構成する要因		回答例
Ⅱ 制 度 上 の 不 安 や 問 題	移行期間のプログラムの充実(n=35)	移行期間中の、勉強・サークル・ゼミのプログラムがあるといいと思う。
		始業前でも授業の聴講のみできるようにしてほしい。
		移行期間中の学習支援等を充実させる必要がある。
	統一的移行制度の導入(n=19)	秋入学を導入するにあたっては、大学だけでなく小～高校までの教育期間や就職に関しても、何かしら変える必要は出てくるだろう。
		入学時期を変更するなら、大学だけでなく徹底的に変えるべきだ。一部だけを変えても社会が歪むだけではないか。
		海外の制度に合わせても、日本の中で統一しなければ逆に混乱する恐れがある。
	意義やメリット・デメリット等の説明不足(n=10)なぜグローバル化しなくてはいけないのか分からない。	秋入学を採用して得られるメリットがよく分からないので、しっかり説明して欲しいです。
		海外留学を考えていない人にとってはメリットはほぼないと思う。
	生徒間格差の問題(n=9)	生徒間での格差が大きくなるのではないか、という不安がある。
		大学に入学してからの、春入学の学生との差を埋められるようにしたい。
		春入学と秋入学の二つの世代の間で、いろいろな認識にギャップが生じてしまうのかと思うと心配です。
	留学制度の改善・充実(n=7)	英語が話せない、書けないという現状では留学を希望する人は出ないと思う。
		秋入学にしたからと言って留学希望者が大幅に増えるとは思えない。
		留学生の人数を増やしてもらえると実りの多い学生生活が送れるのではと思う。
	学校間格差の問題(n=6)	大学ごとに差が生じること(卒業時期)。
		秋入学を実施していない大学の学生との就職の差。
		秋入学を導入した大学と、そうでない大学との間でどのような差が生まれるかなど、まだまだ未知なことが多い。
	不安定な制度の問題(n=2)	結論がまとまらないうちに実施して、後から制度が変わっていき振り回されること。
		何かしらの問題が生じて春入学に戻したなら、秋入学者は振り回されてしまう。

表 25 支持・不支持に関する意見の下位カテゴリー

カテゴリーを構成する要因		回答例
Ⅲ 支持・不支持に関する意見	文化的配慮の必要性(n=8)	春には春の風景の中で、別れと出会いがあって欲しい。
		春入学は日本の文化の一部であると思うので、そこは今まで通りにして欲しいです。
		入学、卒業＝桜というイメージが強すぎる。
	準備期間の確保(n=6)	秋入学になれば時間もでき、旅行など色々なことができて大変良いと思う。
		1人暮らしを始める人にとっては準備期間になりとても嬉しいことではある。
		卒業後の半年間社会に貢献する為の自分磨きができるのではないと思う。
	不支持の意見(n=6)	全ての不安を取り除けない限りは、秋入学等を導入するには慎重になった方が良いと思う。
		早く次のステップに行きたいのに立ち止まるのは嫌だ。
		従来の方式を変える必要がない。

3. 調査結果のまとめ

3. 1 秋入学に関する興味・関心について

秋入学に興味・関心がある者が全体の約 60%を占めた。文系・理系別に見てもほぼ同様の結果である。ただし、回収率を考えると、この数字が東北大生全体の傾向を反映しているのかどうか、判断するのはむずかしい。もともと秋入学に対して高い問題意識を持っている層が調査に協力している可能性を考えると、この数字が必ずしも高いとは言えないだろう。

秋入学の導入と留学意欲との関連では、留学したい気持ちが「強まる」と回答した者は 37%にとどまり、「変わらない」と回答した者が全体の 60%を占めた。また、文系・理系で特に違いは見られなかった。秋入学導入が留学の促進と必ずしも直結しないことを示唆する結果である。ただし、留学したい気持ちが「強まる」という回答と後述する秋入学導入の賛否との間には明らかな関連があることから、留学意欲の高さが秋入学への賛否に影響していることがうかがえる。

3. 2 秋入学に関する賛否について

秋入学導入の賛否では「賛成」が全体の 30%程度にとどまり、「反対」と「賛成とも反対ともいえない」が 35%程度であった。賛成、反対、保留にほぼ 3 分され、関心の高さが秋入学への支持に直接つながっているわけではないことがわかる。この傾向は、文系・理系とも共通して見られる。

最も魅力を感じる入学・卒業の時期については、「現行方式」が最も支持され、44%の対象者が選択した。入学・卒業時期について保守的な考えを持っている者が多いことがわかる。現行方式と秋入学とのいわば妥協の産物である「春入学・秋始業」についても支持は多くなかった。ここでも、文系・理系で大きな結果の違いは見られない。秋入学導入の賛否別に見ると、賛成層における秋入学支持は圧倒的である。しかし就職時期については、現行の採用システムどおりの場合（「秋入学・夏卒業で翌春就職までの間に移行期間がある方式」）と採用システムを変える場合「秋入学・夏卒業でそのまま秋に就職する方式」で、支持は 2 分された。秋入学反対層では「現行方式」への支持が圧倒的であった。

秋入学導入に対して整備が必要とされる事項として 9 割以上の学生が挙げているのが、「就職」に対する対応（「卒業と就職との間にギャップが生じないような採用システムをつくること」「現在の就職活動における新卒一括採用への偏重を是正すること」）と移行期間における対応（「入学予定者を対象とした、移行期間に行われる各種プログラムを充実させること」）であった。秋入学によって就職に不利になる点や移行期間における生活への不安が、秋入学への支持を抑制する要因になっているものと思われる。秋入学導入の賛否別に見ると、反対層において「小学校から高校まで、すべての教育機関で秋入学を実施すること」が必要だとする回答が 50%を超えている点が興味深い。大学のみが秋入学を実施することのデメリットについて敏感であることがうかがえる。

3. 3 移行期間について

移行期間における不安要素について尋ねたところ、文系・理系ともに「自堕落な生活をしてしまう」「入学までに学力が低下すること」「移行期間の過ごし方次第で、入学する学生間に格差が生じること」「移行期間の生活から大学での生活にうまく切り替えができないこと」などを選択する割合が高かった。いずれも、学校から切り離された生活への適応に関係しているという点で共通している。秋入学導入の賛否別に見ると、反対層において「高校生でも大学生でもなく、身分が特に定まっていないこと」を選択した者の割合が約 80%を占めている点が注目される。

移行期間に行いたい活動として最も多かったのは「自動車免許など短期間での資格取得」であり、72%を占めた。次いで「趣味・教養」「アルバイトによる貯蓄」の順で選択する者の割合が多かった。それ以外の項目は多くても 20%台であり、多くの学生が移行期間に行いたいと考える活動の種類は多くない。秋入学賛成層で「海外・語学研修」の選択率が高くなっているのは、留学意欲の高さと関係があるだろう。

移行期間における活動プログラムへの参加については、「参加したいと思わない」割合が「参加したいと思う」割合よりも上回った項目は2項目（「遠隔地からも参加できるeラーニングによる活動」「高校までの学習内容の補習教育」）のみであり、全体的に参加希望が多いことがわかる。特に参加希望が多かったのが、「大学での研究活動などの体験活動」「英語などの語学学習」「入学予定者間の親睦を深めるような交流活動」であった。また、「非常に参加したいと思う」が突出して多かった項目は「海外研修」であった。移行期間に行いたい活動に関する質問（Q1）で「海外・語学研修」の選択率が22%にすぎなかったことと比較すると、移行期間の過ごし方について大学に依存する傾向がうかがえて興味深い。秋入学賛成層で「留学準備のためのプログラム」の選択率が高いのも、留学意欲の高さに関連があるだろう。

4. 考察と結論

4. 1 秋入学導入に対する東北大生の意識

秋入学賛成層が占めるのは全体の約 30%である。また、秋入学賛成層であっても、最も魅力を感じる入学時期として実際に秋入学を選択しているのは約 70%にとどまっている。したがって、秋入学導入に積極的に賛成しているのは全体の 20%程度と言って良いだろう。秋入学導入に関して、東北大生の意識は全体的に保守的であり、慎重に判断しているものと思われる。さらに、留学意欲の変化についてみると、秋入学導入によっても意欲は変わらないとする学生が 60%を占めた。留学意欲について東北大生は決して高いとはいえない水準にある。秋入学導入への保守的な反応と留学意欲の低さは関連しているものと思われる。

4. 2 秋入学賛成層と反対層の違いについて

それでは、秋入学導入に賛成ないし反対する学生にはそれぞれどのような背景があるのだろうか。本調査の結果から、賛成する学生と反対する学生の対照的な特徴が浮かび上がってきた。賛成する学生は、秋入学に高い関心を持っており、それは留学意欲の高さとつながっている。それは移行期間での活動や大学で提供するプログラムに対する希望にも反映しており、「海外・語学研修」や「留学準備のためのプログラム」への参加希望が多いという結果として具体的に表れている。つまり賛成する学生は、秋入学導入によって生じるギャップタームを留学などの経験をふやす機会として積極的にとらえていることがうかがえるのである。対照的に、反対する学生は現行方式を強く支持しており、入学時期の変化に抵抗感を持っている。このような抵抗感は、大学のみが入学時期を変え、他の社会的システムが現行のままであることへのデメリットに敏感であることと関連しているものと思われる。反対する学生の多くが不安に感じている「高校生でも大学生でもなく、身分が特に定まっていないこと」も、高校の卒業時期が現行のままであることから生じるものである。「小学校から高校まで、すべての教育機関で秋入学を実施すること」が必要だという回答が秋入学に反対する学生に多いのも、同様の論理が背景にあるだろう。反対する学生は留学などに興味が低いため、秋入学のメリットが感じられず、むしろデメリットが目がいきやすくなるという側面もあるものと思われる。

以上のことから、本調査で仮定した内容に近い形で秋入学の導入に踏み切った場合、反対層に相当する 3 割の学生がギャップタームでの生活において適応上の問題にぶつかることが予想される。秋入学について意識の高い層の調査結果であることを考慮するならば、3 割という数値は、現実にはもっと高くなる可能性があることも否定できない。

4. 3 適応上の問題と支援体制の構築について

それでは、適応上の問題としてどのような点が懸念材料となるのであろうか。本調査では特に「移行期間」について、関連する質問を行った。その結果によると、多くの学生は学校から切り離された生活に不安を感じているようである。不安の材料としてあげられた「自堕落な生活」「学力の低下」「生間格差」「生活の切り替え」などは、比較的自由な時間の中で自分を律する生活ができるかどうかについての不安や懸念と関係している。小学校以来の学校に依存した生活態度を、直ちに自律的かつ能動的態度に切り替えるよう求められても、戸惑いや不安を感じるのは当然のことであろう。大学が提供する活動プログラムへの参加希望が多いという調査結果も、上述したような受動的態度を反映した結果であると考えられる。したがって、適応上の問題への対応策として先ず考えられることは、大学が提供する活動プログラムを充実させることである。大学から切り離された生活への不安を解消するとともに、大学入学後の学生生活へのスムーズな移行を可能にするためには、ギャップターム中から大学側が積極的に入学予定者に働きかけることが必要である。ギャップタームでの活動の受け皿が社会的に用意されていない現状では、大学が中心になってプログラムを提供することはやむを得ないことであろう。学生のニーズを考慮するならば、大学教育の早期体験、語学学習、学生交流などに係わるプログラムが効果的であるのかもしれない。もっとも、これらの内容は入学後に普通に経験できるものばかりであり、いわば課題対応型の消極的なプログラムである。大学側の負担の大きさも考慮するならば、これらのプログラムの効用について、課題対応とは別の観点からの吟味も必要であろう。

一方、もっと積極的な活動プログラムを提供できる余地も残されている。たとえば、移行期間において自ら行いたい活動して「海外・語学研修」を選択した者は22%にすぎなかったが、大学が提供するプログラムとしての海外研修に参加を希望する学生は70%を超えた。しかも、「非常に参加したい」者の割合が約30%であり、突出して高い。自分から動こうとはしないかもしれないが、大学がプログラムを提供するのであれば参加してみたいと思う学生は多いのである。ここにも、学生の大学依存的な態度が反映されているわけであるが、別な観点から見れば、海外研修に対する潜在的な希望は確実に存在しているのである。大学側が適切なサポートを行い、そのような潜在的な希望の掘り起こしを行うならば、積極的に参加する学生は決して少なくないと予想される。既に述べたように、東北大生の留学意欲は決して高いとはいえない現状である。しかし、海外研修・留学支援のような積極的な活動プログラムの提供が、留学意欲の全体的な向上につながる可能性は高いものと思われる。もちろん、ギャップタームの特質を生かした活動プログラムは海外研修などに限られるわけではない。適応上の問題を解決するには、このような積極的なプログラムの導入により、多くの学生が秋入学のメリットを感じられるような状況変化を生じさせることが必須であろう。

資 料

大学の秋入学に関する意識調査

東北大学大学院教育学研究科 秋入学検討 WG

現在いくつかの大学を中心に、海外の大学と入学時期をそろえることで、海外への留学生と海外からの留学生をふやすことなどを目的として、「秋入学」が検討され始めています。本調査は、この「秋入学」の実施に関して、現在大学生であるみなさまの意識を明らかにすることを目的としたものです。アンケートの結果は統計的に処理され、個人の回答が特定されたり、公表されたりすることはありません。また、答えたくない、もしくは答えられない質問には答えなくて構いません(その場合、質問の左側の数字に×をつけてください)。何卒ご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお、本調査において、秋入学をめぐるさまざまな事柄については、以下のような状況を仮定しています。回答を進める際に適宜ご参照のうえ、ご協力をお願いいたします。

※ご確認をお願いしたい言葉・事項

「春入学」：現在、日本の多くの大学のように **4 月に入学すること**をいいます。

「秋入学」：入学や卒業の時期を半年ずらし、**秋（9 月～10 月）に入学し、夏（8 月～9 月）に卒業**することをいいます。現在、アメリカなどの比較的多くの国では秋入学を実施しています。

「移行期間」：現在、議論が進められている「秋入学」は、大学においてのみ検討されており、高等学校では検討されていません。そこで、大学の「秋入学」が実施された場合、高校を卒業した後、**大学入学までの半年間、高校にも大学にも所属しない期間**が生じることとなります。この期間を本調査では「移行期間」といいます。

「入学予定者」：上記のように「移行期間」が生じるため、この時期は「高校生」でも「大学生」でもない身分となります。そこで本調査では便宜的に この移行期間にある人を「入学予定者」と称します。

入試制度について：秋入学の導入において、大学の入試制度がどのようなになるかについてはこれから議論がなされるところですが、**本調査では、現行通り、センター試験は 1 月、国公立大学の 2 次試験は 2 月～3 月に実施されるもの**とします。つまり、上記の「移行期間」は、3 月に高校を卒業し、受験は終わっている(入学する大学は決まっている)ものの、大学に入学しない期間ということになります。

大学卒業後の進路について：就職の時期(民間企業や公務員等の採用試験等の日程も含む)については、基本的に現状の通りとします。

FQ あなたの所属学部と性別を教えてください。

1. 学部（ ）学部

2. 性別（ 男 ・ 女 ）

設問Ⅰ 移行期間 (秋入学の導入によって生じる, 高校卒業後から大学入学までの半年間) に関して, もしあなたが大学進学に際して実際に「秋入学」をすることになったと仮定してお尋ねします。想像で構いませんので思った通りにご回答ください。

Q1 もし, あなたが秋入学をすることになった場合, あなた自身は移行期間をどのようにして過ごしたいですか。 以下の(a).~(m).の中から, 特にあてはまるものに **3 つまで**○をつけてください。

- (a). 高等学校までの学習の復習

(g). 家事・育児(弟妹などの世話), 介護
- (b). 大学における学習の予習

(h). スポーツ
- (c). 海外・語学研修

(i). 長期間の旅行
- (d). 就労体験

(j). 趣味・教養
- (e). ボランティア活動

(k). 自動車免許など短期間での資格所得
- (f). アルバイトなどによる貯蓄

(l). 特にしたいことはない
- (m). その他 (具体的に

)

Q2 秋入学が導入された場合, 移行期間(高校卒業後大学入学までの半年)の間に, 大学が新たな活動プログラムを提供することが予想されます。このことについて, あなたならどのような活動プログラムに参加したいと思いますか。以下の項目それぞれについて, 「6 非常に参加したいと思う」～「1 まったく参加したいとは思わない」のうち, 最もあてはまるものに 1 つ○をつけてください。

	非常に 参加したいと思う	参加したいと思う	どちらかといえば 参加したいと思う	どちらかといえば 参加したいと思わない	参加したいとは思わない	まったく 参加したいとは思わない
(1) 高校までの学習内容の補習教育.....	(6	5	4	3	2	1)
(2) 大学での研究活動(実験やフィールドワーク)などの体験活動・・	(6	5	4	3	2	1)
(3) 大学1年次の教養教育の事前指導.....	(6	5	4	3	2	1)
(4) 英語などの語学学習.....	(6	5	4	3	2	1)
(5) リーダーシップ等, 社会人として求められる資質の養成講座・・	(6	5	4	3	2	1)
(6) 体力増進・スポーツ活動.....	(6	5	4	3	2	1)
(7) 海外研修.....	(6	5	4	3	2	1)
(8) 大学のカリキュラムにない資格取得に関する学習.....	(6	5	4	3	2	1)
(9) 国際交流.....	(6	5	4	3	2	1)
(10) パソコンなど情報機器の基礎的スキルの修得.....	(6	5	4	3	2	1)
(11) ボランティアなどの社会貢献・奉仕活動.....	(6	5	4	3	2	1)
(12) インターンシップなどの勤労・社会体験.....	(6	5	4	3	2	1)
(13) 出身家庭や地域とは異なる場所でのホームステイ活動.....	(6	5	4	3	2	1)
(14) 留学準備のためのプログラム(説明会やグループワーク).....	(6	5	4	3	2	1)
(15) 大学図書館の開放や利用ガイドの指導.....	(6	5	4	3	2	1)
(16) 遠隔地からも参加できるeラーニングによる活動.....	(6	5	4	3	2	1)
(17) 入学予定者間の親睦を深めるような交流活動.....	(6	5	4	3	2	1)

Q2-2 その他、前ページ Q2 の選択肢にないもので、あなたが「入学予定者」の立場に置かれたとして、移行期間の間に希望する活動プログラムとして望ましいと思うものがあれば、以下の記入欄に自由にご書いてください。

Q3 移行期間（秋入学の導入によって生じる、高校卒業後から大学入学までの半年間）によって生じられる以下のようなことについて、あなた自身はどの程度不安に感じますか。「6 非常に不安である」～「1 まったく不安ではない」のうち、最もあてはまるものに1つをつけてください。

	非常に不安である	不安である	やや不安である	あまり不安ではない	不安ではない	まったく不安ではない
(1) 大学での学業についていけなくなること……………	(6	5	4	3	2	1)
(2) 移行期間の生活から大学での生活にうまく切り替えができないこと……………	(6	5	4	3	2	1)
(3) 移行期間の間に、大学での学習内容に興味を失うこと……………	(6	5	4	3	2	1)
(4) 高校生でも大学生でもなく、身分が特に定まっていないこと……………	(6	5	4	3	2	1)
(5) 移行期間があることで家族に迷惑をかけること……………	(6	5	4	3	2	1)
(6) 移行期間に、自堕落な生活をしてしまうこと……………	(6	5	4	3	2	1)
(7) 移行期間の間、家のなかに自分の居場所がなくなること……………	(6	5	4	3	2	1)
(8) 親や保護者に余計な経済的な負担をかけること……………	(6	5	4	3	2	1)
(9) 入学までに学力が低下すること……………	(6	5	4	3	2	1)
(10) 移行期間の過ごし方次第で、入学する学生間に格差が生じること……………	(6	5	4	3	2	1)
(11) 移行期間に、家事など実家でやるべきことの負担が増えること……………	(6	5	4	3	2	1)

Q3-2 上記 Q3 にあるような記述(項目)も含めて、秋入学導入により移行期間が生じた場合、あなた自身が特に心配になったり気がかりになったりすることはありますか？ なにかございましたら、下記の記入欄にご自由にお書きください。

設問Ⅱ 次に、秋入学に関するあなたの自身の意見や考えについてお尋ねします。

Q4 あなたは大学の秋入学の問題に興味や関心がありますか。以下の a.～e.のうち最もあてはまるものに1つ○をつけてください。

a. 興味や関心がある	b. どちらかといえば興味や関心がある	c. 興味があるともないともいえない	d. どちらかといえば興味や関心はない	e. 興味や関心はない
5	4	3	2	1

Q5 秋入学導入のねらいの1つに、海外への留学の活発化があります。あなたが大学に入学した頃に秋入学の制度が一般的になっていたとした場合、あなたは現在の自分の気持ち以上に留学したいと思いますか。以下の a.～e.のうち最もあてはまるものに1つ○をつけてください。

a. 留学意欲が強まると思う	b. どちらかといえば強まると思う	c. 留学意欲は変わらないと思う	d. どちらかといえば弱まると思う	e. 留学意欲が弱まると思う
5	4	3	2	1

Q6 あなたは自分の所属する大学で秋入学を実施することについてどのように思いますか。以下の a.～e.のうち最もあてはまるものに1つ○をつけてください。

a. 賛成である	b. どちらかといえば賛成している	c. 賛成とも反対ともいえない	d. どちらかといえば反対である	e. 反対である
5	4	3	2	1

Q7 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いますか。
「6 非常に必要であると思う」～「1 まったく必要だとは思わない」のうち、最もあてはまるものに1つ○をつけてください。

		非常に必要だ と思う	必要だ と思う	どちらか といえば 必要だ と思う	どちらか といえば 必要だ とは思 わない	必要だ とは思 わない	まった く必要 だとは思 わない
(1)	秋入学にあわせた時期に大学入試を実施すること……………	(6	5	4	3	2	1)
(2)	すべての大学で秋入学を実施すること……………	(6	5	4	3	2	1)
(3)	高等学校で(2年ないし2.5年で卒業可能とするような)早期卒業制 度が実施され、秋入学に伴う時間的ロスが軽減されること……	(6	5	4	3	2	1)
(4)	移行期間における活動を経済的に支援する制度を導入すること…	(6	5	4	3	2	1)

(Q7 つづき)		非常に必要だと思う	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要だと思わない	必要だと思わない	まったく必要だと思わない
(5)	小学校から高等学校まで、すべての教育機関で秋入学を実施すること……………	(6	5	4	3	2	1)
(6)	入学予定者を対象とした、移行期間に行われる各種プログラムを充実させること……………	(6	5	4	3	2	1)
(7)	「学生割引」など、学生を対象とした優遇措置を入学予定者へも適用すること……………	(6	5	4	3	2	1)
(8)	移行期間における部活動やサークル活動への参加を認めること…	(6	5	4	3	2	1)
(9)	卒業と就職との間にギャップが生じないような採用システムをつくること……………	(6	5	4	3	2	1)
(10)	現在の就職活動における新卒一括採用(定期採用)への偏重を是正すること……………	(6	5	4	3	2	1)

秋入学スケジュール案

Q8 現在、日本のいくつかの大学で秋入学に関して検討が進められていますが、その中では本調査で仮定したような「秋入学、夏卒業」とせず、右の図のような、入学時期を現行通りとし、始業を秋にするという案（実質 3.5 年の修学期間）が提案されています。こうした秋始業の案について、あなたご自身はどのように思いますか。以下の a.～e.のうち最もあてはまるものに1つ○をつけてください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
現行	入学	夏学期							冬学期			

★新スケジュール案

1年目	入学 ブ フ レ グ レ ッ シ ュ ム	サマー プログラム 希望者は 自主的な活動	1学期		2学期
2年目	2学期	サマー プログラム	3学期		4学期
3年目	4学期	サマー プログラム	5学期		6学期
4年目	6学期	サマー プログラム	7学期		8学期 卒業

 長期休業

a. 賛成である

5

b. どちらか
といえば賛
成である

4

c. 賛成とも
反対ともい
えない

3

d. どちらか
といえば反
対である

2

e. 反対である

1

--	--	--	--

Q8-2 上記 Q8 の理由について、なにかございましたら下記の記入欄にご自由にお書きください。

Q9 大学の秋入学をめぐる検討については、本調査で仮定したような「秋入学，夏卒業」や上記 Q8 で述べたような「春入学，秋始業，春卒業」とは異なるやり方があると考えられます。そこで、大学の入学や卒業の時期に関して、あなたは以下の a.~e.選択肢のうち、どの方式に最も魅力を感じますか。 あてはまるもの 1 つにだけ，その記号に○をつけてください。

- a.春入学・春卒業とし，そのまますぐに就職する方式(現行通り)
- b.秋入学・夏卒業とし，翌春の就職までの間にも移行期間を有する方式
- c.秋入学・夏卒業とし，そのまま秋にすぐ就職する方式(現在の採用システムも変える)
- d.上記 Q7 で提案されているような春入学・秋始業・春卒業とする方式
- e.その他の方式 { 具体的に

Q10 最後に、秋入学の導入や移行期間に関して、あなたが「入学予定者」の立場に置かれたとして、心配な点や希望することなど、なにか思うところがございましたら、下記の記入欄にご自由にお書きください。

以上で質問は終わりです。お忙しい中、ご協力頂き誠にありがとうございました。